

2024年度 文学部聴講生

講義要項

(総合教育科目抜粋)

中央大学 文学部

2024.4 - 2025.3

科目名： 哲学

担当教員： 齋藤 宜之

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 火4

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-PE1-T001

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:03:50 更新者： AC8031

更新日時： 2024-01-09 22:57:44

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

この講義では、主に現代の哲学についての解説を基軸にしつつ、狭義の「哲学」には分類されない精神分析や言語論などについてもとりあげる。現代哲学のひとつの特徴は、それ以前のオーソドックスな哲学では論じられなかった主題についても探究の対象としていることにある。哲学は、所与の「哲学的主題」を扱うことによって成立するのではなく、いかなる主題であれ、それに対して「哲学的態度」で臨むことによって成立するというものを、講義全体を通じて提示したい。

### 科目目的

現代哲学の基本的な概念や理論を理解し、自らの関心に応じたより発展的な知識修得のための基礎を築くこと。

### 到達目標

現代哲学の主要な概念や理論について概略的に説明できる程度までの理解を得ること。

### 授業計画と内容

- 第1回 ガイダンスとイントロダクション
- 第2回 「現代」の思想構造：リオタール
- 第3回 実存の哲学(1)：キルケゴール
- 第4回 実存の哲学(2)：サルトル
- 第5回 可死性の哲学：ヤスパーズ・ハイデガー
- 第6回 不死性の哲学：アーレント
- 第7回 有限性の哲学：ダステュール
- 第8回 現象学：フッサール
- 第9回 知覚の哲学：メルロ＝ポンティ
- 第10回 無意識の発見：フロイト
- 第11回 主体化の理論：ラカン
- 第12回 言語の哲学：ソシュール
- 第13回 言語と無意識：ソシュール
- 第14回 到達度確認

※ 講義の内容や順序は必要に応じて多少の変更もありうる。

### 授業時間外の学修の内容

- 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出

- ✓ その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業内で紹介した文献を可能な限り読んでみる。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 70% 授業内で得た知識を活かしたうえで、自らの頭で考え抜いた論述を高く評価する。
- レポート 0%

平常点 30% リアクションペーパーの内容や講義内における質問等の積極性を評価する。  
その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

- ・特定のテキストは指定しない。
- ・講義資料は授業時に配布する。必要に応じて、PDF資料をmanaba上にアップするので、受講者は各自ダウンロードすること。
- ・参考文献については授業内で適宜紹介する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

**科目名： 倫理学****担当教員： 寺本 剛**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：水2

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-PE1-T002

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:51 更新者：AA1330

更新日時：2023-11-25 17:35:47

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

倫理は一人一人の人間の生き方や社会全体の在り方を大きく左右する重要なものであるが、それがどのようなものなのかを理解するのは容易ではないし、これまでの歴史の中で倫理について説明する完璧な学説が存在したわけでもない。こうした前提認識のもと、西洋の倫理学の主要な学説を概説し、それぞれの考え方の本質を明らかにした上で、各学説に対して批判的な検討を加えていく。各回に様々なタイプのアクティブラーニングに取り組むことで、諸学説の内容の理解度を確保するとともに、「倫理的に考える」方法を身につける。

**科目目的**

この科目は、学位授与の方針で示されている「卒業するにあたって備えるべき知識・能力・態度」のうち、以下の能力を養うことを目的とする。

- ・専門的学識：各専攻の学問分野において求められる専門的な知識を備えている。
- ・幅広い教養：多種多様な科目から得られた幅広い教養を身に付けている。
- ・複眼的思考：専門的学識と幅広い教養を併せ持つことにより、複眼的に思考し、多様な社会に柔軟に対応することができる。
- ・コミュニケーション力：自分の考えを相手に伝え、理解を得るとともに、相手の考えを理解することができる。

**到達目標**

- ・西洋哲学において主題として扱われてきた倫理学の基本的な概念や学説について、適切なボキャブラリーを使って、説明できるようになる。
- ・社会や日常生活において生じている諸問題を、倫理の観点から分析し、その結果を適切なボキャブラリーを使って、説明できるようになる。

**授業計画と内容**

- ① インTRODクシヨン：倫理とは何か一暫定的な見取り図（動画配信型）
- ② 功利主義・義務論・徳倫理学（動画配信型）
- ③ 道徳感情論（動画配信型）
- ④ 社会契約論（動画配信型）
- ⑤ 正義論（動画配信型）
- ⑥ ケアの倫理（動画配信型）
- ⑦ フェミニスト倫理学（動画配信型）
- ⑧ 現象学的倫理学（動画配信型）
- ⑨ 善き生・幸福（動画配信型）
- ⑩ 自由（動画配信型）
- ⑪ 自律と尊厳（動画配信型）
- ⑫ 責任（動画配信型）
- ⑬ 公共（動画配信型）
- ⑭ 総括：倫理的に考えるということ（動画配信型）

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

講義の内容に関連して具体的な事例を使ったアクティブラーニングを行う。それに対して受講者はmanabaのアンケート機能を通じて自分なりの回答を提出する。次回の講義においてその回答を紹介しながら、適切な考え方や回答の仕方についてフィードバックを行う。本講義の理解を深めるために、積極的に回答を提出することが求められる。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	100%	・第2回～第13回の講義では、アクティブラーニングの成果を小レポートとして提出し、それを1回につき5点満点で評価する。(5点×12回=60点) ・期末レポートは40点満点で評価する。
		*小レポートや期末レポートは、各回に学んだ学説の適切な理解を踏まえて考察がなされているかどうか、また、その考察が適切なボキャブラリーを使って表現されているかどうかで評価される。
平常点	0%	
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）  
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク
- ✓ その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

各回のテーマについての理解度の確認と向上のため、具体的な事例について考察する。manabaのアンケート機能等を通じて提出された小レポートにコメントすることで、どのような考え方や答え方が適切であるかをフィードバックする。

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manaba等を利用して受講者との情報交換を行う。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

教科書として以下の書籍を使用する。

書名：『倫理学：3ステップシリーズ』  
編者：神崎宣次・佐藤静・寺本剛  
出版社：昭和堂  
シリーズ名・ナンバー：3STEP シリーズ 5  
ISBN：9784812222188

### オフィスアワー

**その他特記事項**

**参考URL**

**備考**

この科目はオンライン形式です。 この科目は教職（社会、公民）の必修科目です。

---

**科目名： 倫理学****担当教員： 寺本 剛**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限： 火2

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-PE1-T002

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:51 更新者：AA1330

更新日時：2023-11-25 17:35:54

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

倫理は一人一人の人間の生き方や社会全体の在り方を大きく左右する重要なものであるが、それがどのようなものなのかを理解するのは容易ではないし、これまでの歴史の中で倫理について説明する完璧な学説が存在したわけでもない。こうした前提認識のもと、西洋の倫理学の主要な学説を概説し、それぞれの考え方の本質を明らかにした上で、各学説に対して批判的な検討を加えていく。各回に様々なタイプのアクティブラーニングに取り組むことで、諸学説の内容の理解度を確保するとともに、「倫理的に考える」方法を身につける。

**科目目的**

この科目は、学位授与の方針で示されている「卒業するにあたって備えるべき知識・能力・態度」のうち、以下の能力を養うことを目的とする。

- ・専門的学識：各専攻の学問分野において求められる専門的な知識を備えている。
- ・幅広い教養：多種多様な科目から得られた幅広い教養を身に付けている。
- ・複眼的思考：専門的学識と幅広い教養を併せ持つことにより、複眼的に思考し、多様な社会に柔軟に対応することができる。
- ・コミュニケーション力：自分の考えを相手に伝え、理解を得るとともに、相手の考えを理解することができる。

**到達目標**

- ・西洋哲学において主題として扱われてきた倫理学の基本的な概念や学説について、適切なボキャブラリーを使って、説明できるようになる。
- ・社会や日常生活において生じている諸問題を、倫理の観点から分析し、その結果を適切なボキャブラリーを使って、説明できるようになる。

**授業計画と内容**

- ① インTRODダクション：倫理とは何か一暫定的な見取り図（動画配信型）
- ② 功利主義・義務論・徳倫理学（動画配信型）
- ③ 道徳感情論（動画配信型）
- ④ 社会契約論（動画配信型）
- ⑤ 正義論（動画配信型）
- ⑥ ケアの倫理（動画配信型）
- ⑦ フェミニスト倫理学（動画配信型）
- ⑧ 現象学的倫理学（動画配信型）
- ⑨ 善き生・幸福（動画配信型）
- ⑩ 自由（動画配信型）
- ⑪ 自律と尊厳（動画配信型）
- ⑫ 責任（動画配信型）
- ⑬ 公共（動画配信型）
- ⑭ 総括：倫理的に考えるということ（動画配信型）

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

講義の内容に関連して具体的な事例を使った思考実験を行う。それに対して受講者はmanabaのアンケート機能等を通じて自分なりの回答を提出する。次回の講義においてその回答を紹介しながら、適切な考え方や回答の仕方についてフィードバックを行う。本講義の理解を深めるために、積極的に回答を提出することが求められる。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回～第13回の講義では、アクティブラーニングの成果を小レポートとして提出し、それを1回につき5点満点で評価する。(5点×12回=60点)</li> <li>・期末レポートは40点満点で評価する。</li> </ul> <p>※小レポートや期末レポートは、各回に学んだ学説の適切な理解を踏まえて考察がなされているかどうか、また、その考察が適切なボキャブラリーを使って表現されているかどうかで評価される。</p>
平常点	0%	
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

各回のテーマについての理解度の確認と向上のため、具体的な事例について考察する。manabaのアンケート機能等を通じて提出された小レポートにコメントすることで、どのような考え方や答え方が適切であるかをフィードバックする。

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manaba等を利用して受講者との情報交換を行う。

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

教科書として以下の書籍を使用する。

書名：『倫理学：3ステップシリーズ』  
 編者：神崎宣次・佐藤静・寺本剛  
 出版社：昭和堂  
 シリーズ名・ナンバー：3STEP シリーズ 5  
 ISBN：9784812222188

### オフィスアワー



**その他特記事項**

**参考URL**

**備考**

この科目はオンライン形式です。 この科目は教職（社会、公民）の必修科目です。

---

科目名: 社会思想／社会思想A

担当教員: 中村 勝己

履修年度: 2024 学期: 前期

開講曜日時限: 月3

配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-PE1-T003

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:03:51 更新者: AC5502

更新日時: 2024-02-03 12:52:06

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

前半6回の講義で18世紀末に起きたフランス革命(1789年)にはじまり、19世紀半ばに起きた1848年革命の直前までの西ヨーロッパの社会思想の歴史について講義する。具体的には、カント(プロイセン=独)、アダム・スミス(スコットランド=英)、ヘーゲル(プロイセン=独)という3人の思想家を中心に講義する。

後半6回で19世紀半ばに生じたヨーロッパ規模での1848年革命から、パリ・コミュン(1871年)、世紀末ウィーンの社会、第一次世界大戦(1914-1918年)、ロシア革命(1917年)、ドイツ革命(1918年)、ドイツにおけるナチスの政権掌握(1933年)までの歴史の流れを背景にして、マルクス(プロイセン=独)、マックス・ヴェーバー(プロイセン→ヴァイマル共和国=独)、ジークムント・フロイト(オーストリア)の思想を解説し、彼らの著作の抜粋を読んでいく。

20世紀の後半以降、彼らの思想がどのように受容され、批判されたのかについても説明し、21世紀の今日に彼らの思想を再読する意味について一緒に考えてみたい。

**科目目的**

19世紀と20世紀の西欧の社会思想の古典を読む作業を通じて、現代の思想や学問で議論されているテーマの前提を理解できるようにすることが目的である。

**到達目標**

毎回まじめに授業に臨み、教員の問いかけに積極的に応答できるようになること。

**授業計画と内容**

- 1 導入——カントの社会思想(1)「啓蒙とは何か」を読む
- 2 カントの社会思想(2)『人倫の形而上学の基礎づけ』を読む
- 3 スミスの社会思想(1)『道徳感情論』について
- 4 スミスの社会思想(2)『国富論』について
- 5 ヘーゲルの社会思想(1)『歴史哲学講義』——ナポレオンの時代
- 6 ヘーゲルの社会思想(2)『法哲学講義』——人倫とはなにか
- 7 まとめ
- 8 マルクスの社会思想(1)ハイデガーズ・チルドレンのマルクス論を読む
- 9 マルクスの社会思想(2)1848年革命と資本主義論
- 10 ヴェーバーの社会思想(1)呪術からの解放とは何か
- 11 フロイトの社会思想(1)『ヒステリー症例』を読む
- 12 フロイトの社会思想(2)文明の起源にある抑圧
- 13 ヴェーバーの社会思想(2)「鉄の檻」のゆくえ
- 14 まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出

その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	35% 7ポイント × 5点=35点
レポート	35% 7ポイント × 5点=35点
平常点	30% 15ポイント × 2点=30点
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

新学期(2024年度)も、中間と期末にレポート提出を課すことにする。内容は、中間のレポート課題が前半6回の講義に関するもの、期末のレポート課題が後半6回の講義に関するものとなる予定である。  
毎回授業に出席して、質問なりコメント(感想)を出してもらおう。そうしてくれた学生に限り出席調査票を渡して出席扱いとする。  
配点は、1回目位のレポート課題で35点、2回目のレポート課題で35点、毎回のコメントで2点 × 15回の授業で30点、合計100点である。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

毎回プリントを授業支援システム(C plus, manaba)にアップロードする。  
教科書はなし

参考書はプリントの末尾に参考文献を毎回挙げる。例えば、以下の通りである。

G・アリギ『北京のアダム・スミス——21世紀の諸系譜』中山智香子監訳、作品社  
安藤英治（聞き手）『回想のマックス・ウェーバー』亀嶋庸一編、今野元訳、岩波書店  
稲葉振一郎『「資本」論——取引する身体／取引される身体』ちくま新書  
奥村宏『会社はどこへ行く』NTT出版  
加藤尚武『現代倫理学入門』講談社学術文庫  
川本隆史『現代倫理学の冒険』創文社  
カント『道徳形而上学の基礎づけ』中山元訳、光文社古典新訳文庫  
カント『人倫の形而上学』加藤新平ほか訳、『世界の名著39』所収、中央公論社  
カント『永遠平和のために／啓蒙とは何か 他三篇』中山元訳、光文社古典新訳文庫  
カント『理論と実践』、『啓蒙とは何か 他四篇』篠田英雄訳、岩波文庫所収  
カント『人間学』坂田徳男訳、岩波文庫  
カント『永遠平和のために／啓蒙とは何か 他三篇』中山元訳、光文社古典新訳文庫  
栗木安延『アメリカ自動車産業の労使関係——フォーディズムの歴史的考察〔改訂版〕』社会評論社  
クリスタ・クリューガー『マックス・ウェーバーと妻マリアンネ』徳永恂ほか訳、新曜社  
マーティン・グリーン『リヒトホーフエン姉妹』塚本明子訳、みすず書房  
——『真理の山』進藤英樹訳、平凡社  
坂部恵『人類の知的遺産43カント』講談社  
マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』鬼澤忍訳、ハヤカワ文庫  
アダム・スミス『道徳感情論』村井章子・北川知子訳、日経BP社  
アダム・スミス『国富論』水田洋・杉山忠平訳、岩波文庫  
スミス『法学講義』水田洋訳、岩波文庫  
アマルティア・セン『経済学の再生』徳永澄憲ほか訳、麗澤大学出版会  
田中正司「市民社会観」、田村秀夫・田中浩（編集代表）『社会思想事典』中央大学出版部  
フレデリック・W・テイラー『新訳 科学的管理法』有賀裕子訳、ダイヤモンド社  
W・L・テラー『ハチスン・ヒューム・スミス』山口正春・川又祐訳、三恵社  
土井崇弘「自生的秩序」、森村進 編著『リバタリアニズム読本』勁草書房 所収  
F・A・ハイエク『隷属への道』西山千明訳、春秋社  
ハーバマス『公共性の構造転換〔第二版〕』細谷貞雄・山田正行訳、未來社  
ハーバマス『他者の受容』高野昌行訳、法政大学出版局  
長谷川貴彦『産業革命：世界史リブレット116』山川出版社  
ハリ・ブレイヴァマン『労働と独占資本』富沢賢治訳、岩波書店  
G・ベッカー『人的資本』佐野陽子訳、東洋経済新報社  
ホップズ『リヴァイアサン』水田洋訳、岩波文庫  
水田洋『アダム・スミス——自由主義とは何か』講談社学術文庫  
森村進「最小国家」、森村進 編著『リバタリアニズム読本』勁草書房 所収  
ハンス・ライス『カントの政治思想』樽井正義訳、芸文出版  
ルソー『社会契約論／ジュネーブ草稿』中山元訳、光文社古典新訳文庫  
ロック『統治二論』加藤節訳、岩波文庫  
ジョン・ロールズ『正義論』川本隆史・福岡聡・神島裕子訳、紀伊國屋書店  
ホルクハイマー、アドルノ『啓蒙の弁証法』徳永恂訳、岩波文庫  
竹中幸使『図説 フランス革命史』河出書房新社  
アレクサンドル・コジエヴ『ヘーゲル読解入門『精神現象学』を読む』上妻精・今野雅方訳、国文社  
中埜肇『ヘーゲル』中公新書  
林健太郎編『ドイツ史（増補改訂版）』山川出版社  
廣松渉編『世界の思想家12 ヘーゲル』平凡社  
フランシス・フクヤマ『歴史の終わり』上下、渡部昇一訳、三笠書房  
ヘーゲル『歴史哲学講義』上下、長谷川宏訳、岩波文庫  
ヘーゲル『ヘーゲル書簡集』小島貞介訳、日清堂書店  
マックス・ヴェーバー『宗教社会学論選』大塚久雄・生松敬三訳、みすず書房  
——『世界宗教の経済倫理——序論・中間考察』中山元訳、日経BP社  
マリアンネ・ヴェーバー『マックス・ウェーバー』大久保和郎訳、みすず書房  
エドゥアルト・バウムガルテン『マックス・ヴェーバー』生松敬三訳、福村出版  
アーサー・ミッツマン『鉄の檻——マックス・ウェーバー 一つの間劇』安藤英治訳、木鐸社  
アルベルト・メルツ『現在に生きる遊牧民（ノマド）』山之内靖ほか訳、岩波書店  
上山安敏『神話と科学 ヨーロッパ知識社会 世紀末～20世紀』岩波書店  
フロイト『文化への不満』、『幻想の未来／文化への不満』中山元訳、光文社古典新訳文庫  
アーネスト・ジョーンズ『フロイトの生涯』竹友安彦・藤井治彦訳、紀伊國屋書店  
マルクーゼ『エロスの文明』南博訳、紀伊國屋書店  
ジークムント・フロイト『自叙・精神分析』生松敬三訳、みすず書房  
フロイト『ヒステリー研究』懸田克躬訳、『フロイト著作集』第7巻、人文書院  
ブロイアー＝フロイト『ヒステリー研究（初版）』金関猛訳、中公クラシックス  
チャールズ・ライクロフト『精神分析学辞典』山口泰司訳、河出書房新社  
安藤英治『マックス・ウェーバー 人類の知的遺産62』講談社  
マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』中山元訳、日経BP社  
久米あつみ『カルヴァン 人類の知的遺産28』講談社  
小泉 徹『世界史リブレット27 宗教改革とその時代』山川出版社  
日本基督教改革教会／信条翻訳委員会訳『ウェストミンスター信仰告白』新教出版社  
三島憲一「訳者解説」、ハーバマス＝ラッツィンガー『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』岩波書店  
山之内靖『マックス・ヴェーバー入門』岩波新書  
八木谷涼子『知って役立つキリスト教大研究』新潮OH！文庫  
朝倉文市『世界史リブレット21 修道院にみるヨーロッパの心』山川出版社  
安藤英治『マックス・ウェーバー 人類の知的遺産62』講談社  
安藤英治（聞き手）『回想のマックス・ウェーバー』亀嶋庸一編、今野元訳、岩波書店  
マックス・ヴェーバー『宗教社会学論選』大塚久雄・生松敬三訳、みすず書房  
——『世界宗教の経済倫理——比較宗教社会学の試み 序論・中間考察』中山元訳、日経BP社  
社  
——『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』中山元訳、日経BP社  
マリアンネ・ヴェーバー『マックス・ウェーバー 一つの生涯』大久保和郎訳、みすず書房  
房  
ニーチェ『ツァラトゥストラ』上、吉沢伝三郎訳、ちくま学芸文庫  
ダニエル・ベル『資本主義の文化的矛盾』（上）林雄二郎訳、講談社学術文庫  
八木谷涼子『知って役立つキリスト教大研究』新潮OH！文庫

荒井章三・森田雄三郎『ユダヤ思想』大阪書籍  
鈴木輝二『ユダヤ・エリート——アメリカへ渡った東方ユダヤ人』中公新書  
成瀬治・黒川康・伊東孝之『ドイツ現代史』山川出版社  
マルクーゼ『初期マルクス研究』良知力・池田優三共訳、未来社  
レーヴィット『ウエーバーとマルクス』柴田治三郎・脇圭平・安藤英治訳、未来社  
アーレント『革命について』志水速雄訳、ちくま学芸文庫  
リチャード・ウォーリン『ハイデガーの子どもたち』村岡晋一・小須田健・平田裕之訳、木田元解説、新書館  
マルクス＝エンゲルス『共産党宣言・共産主義の諸原理』水田洋訳、講談社学術文庫  
マルクス＝エンゲルス『新訳 共産党宣言——初版ブルクハルト版（1848年）』的場昭弘訳、作品社  
井村喜代子「世界市場の大暴風雨」、杉原四郎・佐藤金三郎編『資本論物語』有斐閣  
河野健二『現代史の幕あけ——ヨーロッパ1848年——』岩波新書  
田畑 稔『増補新版 マルクスとアソシエーション』新泉社

## オフィスアワー

## その他特記事項

## 参考URL

## 備考

---

**科目名： イスラーム概説****担当教員： 飯塚 正人**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：月4

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-PE1-T004

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:52 更新者：AD1161

更新日時：2024-01-08 10:34:24

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

アジアから北アフリカにまで及ぶ「東洋」に暮らす人々の大半が自分または隣人・隣国の問題として日常的に意識しており、「東洋」の広い範囲に共通の特徴を与えているイスラームとムスリムについて学習し、現代イスラーム世界の国々の政治経済や社会生活におけるイスラームの影響力・位置を含めて考察する。

**科目目的**

この科目は、カリキュラム上の総合教育科目として位置づけられていることから、学生がこの科目での学習を通じて、世界人口の約4分の1を占めるイスラーム教徒（ムスリム）の国々の政治経済や社会生活におけるイスラームの影響力・位置に対する認識を深めるとともに、イスラームの教えそのものに対する基礎的な知識を習得することを目的としています。

**到達目標**

この科目では、以下を到達目標とします。

- ・イスラーム信仰の基本とその多様な展開について第三者に解説できるようになること。
- ・現代イスラーム世界の国々の政治経済や社会生活におけるイスラームの影響力・位置を論理的に説明できるようになること。

**授業計画と内容**

- 第1回 インTRODクシヨン：イスラームとムスリムが誤解されやすい理由
- 第2回 聖典クルアーンの思想
- 第3回 預言者ムハンマドの前半生
- 第4回 預言者ムハンマドの後半生
- 第5回 イスラーム世界の拡大とハワーリジュ派の出現
- 第6回 シーア派の成立と展開
- 第7回 ウラマーとイスラーム法学
- 第8回 スーフィズム（イスラーム神秘主義）とスーフイー教団
- 第9回 近代化への3つの道と「原理主義国」サウディアラビア
- 第10回 アイデンティティ複合とトルコの「世俗主義」
- 第11回 現代における「イスラーム原理主義」
- 第12回 イスラーム法学におけるジハード論とアルカーイダ、ISIL
- 第13回 ムスリムの冠婚葬祭と日常生活
- 第14回 総括・まとめ・到達度確認

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- |      |     |  |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0%  |  |
| 期末試験 | 70% | イスラームについての基礎知識を理解したうえで、ムスリムの歴史と現在を論理的・客観的な観点から説明できるかどうかを評価します。 |
| レポート | 0%  |  |

平常点 30% 毎回の授業後の課題提出状況を基準とします。オンライン録画での授業となる場合には、授業視聴後の課題提出状況を基準とします。

その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

✓ その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

特定のフィードバックは行わないが、授業時間内に理解が進むよう工夫する。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他

✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
タブレット端末  
その他

✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

はい  
✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。  
参考文献は、飯塚正人『現代イスラーム思想の源流』、山川リブレット、2008年。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名：日本の思想の歴史／日本倫理思想史A

担当教員：米田 達也

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：月4

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-PE1-T008

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:52 更新者：AB3054

更新日時：2024-01-08 21:24:05

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

日本の思想は、常に先進的な外来思想（前近代では主に中国思想、近代以降は西洋思想）を選択的に受け入れながら、それに一定の変容を施し修正することで形成されてきました。何が変容を惹き起こすコアな要因になるのか、さまざまな議論がありますが、いずれにしても、ある種の変容を受けて歴史的に根づいた思想にこそ、日本的な独自の「個性」が認められることは確かなようです。

授業では、そうした日本の「個性」を表現する豊かな思想のうち、私たちのものの見方や考え方に深く持続的な影響を及ぼしているものを、古代から明治近代までのスパンで取り上げてみようと思います。それらはみな、伝統的な価値観の基層に関わる思想であり、その考察を通して、日本人の思惟様式にみる「特殊」と「普遍」のかたちの一端が明らかになるはずです。

**科目目的**

この科目は、総合教育科目群・共通科目に位置づけられています。したがって、この授業での学習を通して、「幅広い教養」と「複眼的思考」を身につけることにより、現代社会における多様な問題や変化に、的確かつ柔軟に対応するための「しなやかで強い」知性を養うことを目的とします。

**到達目標**

- ①日本における基層的な価値観の系譜を見定め、日本人の思考と行動の特徴的な様式を理解すること。
- ②現代における思想や倫理をめぐる諸問題に対処するための、伝統をふまえた俯瞰的な視座を養うこと。

**授業計画と内容**

- 第1回 はじめに：日本の思想の深みへ
- 第2回 日本神話のコンプレックス：スサノヲ神話を読む
- 第3回 「言霊」の圏域：『万葉集』から『古今集』仮名序へ
- 第4回 「無常」のかたち：西行と鴨長明にみる無常観の位相
- 第5回 越境するアニミズム：草木成仏論と「自然」について
- 第6回 語りえぬものを「語る」：空海と道元の言語論
- 第7回 武家社会における法の精神：北条泰時の「道理」と御成敗式目
- 第8回 顕冥あやなす歴史の文法：『愚管抄』の「道理」史観
- 第9回 演技する実存の自覚：夢幻能と世阿弥の能芸論
- 第10回 正統キリシタンの逆説：不干斎ハビアン思想
- 第11回 消費される愛の臨界：近松門左衛門の「義理」と悲劇について
- 第12回 感性のファシズム：本居宣長の「もののあはれ」論
- 第13回 武士道の黄昏：近代国民道徳の誕生と『武士道』について
- 第14回 まとめ：日本の思想の「個性」とは何か

※ 上記の内容は、都合により変更する場合もあるので、予めご了承願います。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

- ①授業前：manabaで、講義用プリントを予めダウンロードして事前に読み込み、講義の概要を理解するよう努めること。その際、各項目のキーワードを重点的に確認しながら、テーマの論点を整理しておくこと。
- ②授業後：講義で指摘された重要事項やわからない語句の意味を必ずチェックするとともに、テーマの問題を自分の視点でとらえ直し、講義内容の理解度を深めるようにすること。



### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	日本の思想に関する基本知識を理解できた上で、授業で取り上げた各種のテーマを独自の観点から整理して論じられるかどうかを評価します。
レポート	0%	
平常点	40%	毎回、授業の内容に関する課題を200文字以上で作成し、授業終了後に提出してもらいます。評価のポイントは、授業で扱った重要事項が正しく理解できているかであり、この課題提出が、出席確認を兼ねることになります。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

成績（単位）評価の前提条件：出席率が60%に満たない者（公欠届またはそれに準ずる書類の提出、あるいは正当な事由の申告があれば、出席扱いにする）、課題を4回以上提出しない者については、E判定とします。

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

- ✓ その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

随時メール等にて質問を受け付け、解答する。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL（課題解決型学習）  
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
タブレット端末  
その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストは使用しません。授業では、テーマごとに関連するレジュメ等を資料として配布します。

参考文献

末木文美士『日本思想史』岩波書店 2020年（岩波新書）ISBN：978-4-00-431821-

7

それ以外は必要があれば、授業で適宜、そのつど紹介・指示します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

授業は一話完結ではなく、系統的につながりのある内容を関連づけて順次説き明かしていくので、前回の内容を踏まえたうえでの展開になります。

したがって、できるだけ毎回継続して意欲的に出席しなければ、授業の理解や課題の作成に支障をきたすのは必至です。単位認定の選考（評価）基準は、例外なく厳格に適用するので、単位の取得は難しくなると考えて下さい。

### 参考URL

### 備考

---

科目名：日本の美学／日本倫理思想史B

担当教員：米田 達也

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：月4

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-PE1-T009

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:53 更新者：AB3054

更新日時：2024-01-08 21:23:13

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

日本人の美意識って、どんな感じなのだろう。たとえば、西欧における古典主義の美学では、壮大で力強く幾何学的に整った形など、対象がそなえる性質に合理的な「美」を見るのに対して、日本人はどちらかというと、小さく清らかで繊細なものに直観的な「美」を感じるらしい。そして何よりも、「美」とは対象がもつ性質にあるのではなく、そうした性質に触発された「心」が想像(創造)するイメージにこそ存在するというのが、日本人に共有される「美のかたち」の基本認識だと、ひとまずは理解してもよさそうです。

授業では、このような「美のかたち」を表現する日本独自の美的理念(「みやび」や「幽玄」など)を取り上げ、それらが含意する豊かで多彩な内実をたぐり寄せることによって、日本人が長い時間をかけて研ぎ澄ましてきた美意識の特徴を、その一端なりともあぶり出してみたいと思います。そこはかたないおもかげ、移ろいゆくはかなさ、不可視なものがあらわれる一瞬のきらめき、そこに魅了された先人たちの、そして私たちの感知する美的な感動の本質とは何か、が探索してゆく考察の過程を通して次第に明らかになってくるはずです。

**科目目的**

この科目は、総合教育科目群・共通科目に位置づけられています。

したがって、この授業での学習を通して、「幅広い教養」と「複眼的思考」を身につけることにより、現代社会における多様な問題や変化に、的確かつ柔軟に対応するための「しなやかで強い」知性を養うことを目的とします。

**到達目標**

この科目では、以下の目標への到達を目指します。

- ①日本に独自の美的理念を歴史的な系譜に基づき解析することによって、今に生きる私たちにまで繋がる日本人の美意識の特徴を理解する。
- ②日本人が周囲の自然や人々と関わり合う中で育んできた「美のかたち」を認識し、日常的な些事の真只中に豊かな価値を切り拓くための視座を身につける。

**授業計画と内容**

- 第1回 はじめに：日本人の美意識の特徴について
- 第2回 「みやび」と色好み：王朝貴族の感性美
- 第3回 「幽玄」と艶：歌論における美の系譜学
- 第4回 「幽玄」と花：世阿弥の美学
- 第5回 「わび」と数寄：娑婆羅から市中の隠へ
- 第6回 「わび」茶の理想：千利休の美学
- 第7回 「さび」と風雅：松尾芭蕉の美学
- 第8回 「もののあはれ」の啓示：本居宣長の美学
- 第9回 「いき」の仕掛け：江戸前の美意識
- 第10回 退廃のエロス：「悪」と「醜」の美学
- 第11回 日本美の再発見：岡倉天心の「理想」
- 第12回 美の宗教とは何か：柳宗悦と「用の美」
- 第13回 「かわいい」の相貌：アップデートする美意識
- 第14回 総括・まとめ

※ 上記の内容は、都合により変更する場合もあるので、予めご了承願います。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

①授業前：manabaで、講義用プリントを予めダウンロードして事前に読み込み、講義の概要を理解するよう努めること。その際、各項目のキーワードを重点的に確認しながら、テーマの論点を整理しておくこと。

②授業後：講義で指摘された重要事項やわからない語句の意味を必ずチェックするとともに、テーマの問題を自分の視点でとらえ直し、講義内容の理解度を深めるようにすること。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	日本の美学に関する基本知識を理解できた上で、授業で取り上げた各種のテーマを独自の観点から整理して論じられるかどうかを評価します。
レポート	0%	
平常点	40%	毎回、授業の内容に関する課題を200文字以上で作成し、授業終了後に提出してもらいます。評価のポイントは、授業で扱った重要事項が正しく理解できているかであり、この課題提出が、出席確認を兼ねることになります。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

成績（単位）評価の前提条件：出席率が60%に満たない者（公欠届またはそれに準ずる書類の提出、あるいは正当な事由の申告があれば、出席扱いにする）、課題を4回以上提出しない者については、E判定とします。

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

- ✓ その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

随時メール等にて質問を受け付け、解答する。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL（課題解決型学習）  
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
タブレット端末  
その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストは使用しません。授業では、テーマごとに関連するレジュメ等を資料として配布します。

参考文献

高階秀爾『増補 日本美術を見る眼』岩波書店 2009年（岩波現代文庫）ISBN：978 - 4 - 00 - 602158 - 0

それ以外は必要があれば、授業で適宜、そのつど紹介・指示します。

## オフィスアワー

## その他特記事項

授業は一話完結ではなく、系統的につながりのある内容を関連づけて順次説き明かしていくので、前回の内容を踏まえたうえでの展開になります。  
したがって、できるだけ毎回継続して意欲的に出席しなければ、授業の理解や課題の作成に支障をきたすのは必至です。単位認定の選考（評価）基準は、例外なく厳格に適用するので、単位の取得は難しくなると考えて下さい。

## 参考URL

## 備考

---

科目名： 日本国憲法と立憲主義／公法概論A

担当教員： 徳永 貴志

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 月5

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-PU1-T101

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:03:54 更新者： AC7751

更新日時： 2023-12-25 11:03:06

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

日本国憲法の諸原理について、必要に応じて裁判例も参照しながら条文に即して詳しく解説する。国会が制定する法律や行政府による命令は憲法に違反してはならないとされているが、それはなぜか。また、日本国憲法は制定以来半世紀以上改正されていないが、その事実はどのように評価すればよいか。民主制を採用するわが国において、現在の国民によって民主的に組織される国会や内閣による政治決定よりも、半世紀以上に前に制定された憲法の方が優位するのはなぜか。この講義では、我々を取り巻く具体的な政治問題も取り上げながら、これらの疑問について考える。

前期の「日本国憲法と立憲主義」／「公法概論A」では、憲法総論および統治機構について学ぶ。

**科目目的**

日本国憲法に規定される個別の条項だけではなく、それらの背景にある思想・原理などの学習を通して、「立憲主義」の考え方を身につけることをねらいとする。また、他国の憲法との比較も行うことによって、普遍的な視点で憲法について考える姿勢の習得を目指す。

**到達目標**

履修者は、今日我々が直面している重要な憲法問題の所在を知り、広い視野と柔軟な思考によって、それらの問題を論理的に整理し、自らの価値判断に従って理に適った議論を組み立てることができるようになる。憲法の意味について考える出発点として、統治機構（国会・内閣・裁判所）や学説による憲法解釈の内容を正しく理解する必要があるが、それらの憲法解釈を踏まえたうえで、さらに自らの熟慮を通じて導き出した結論を立場の異なる相手にも説得的に説明できるようになることを目指す。

**授業計画と内容**

- 1 憲法と立憲主義
- 2 大日本帝国憲法
- 3 日本国憲法制定過程
- 4 平和主義
- 5 立憲主義と平和主義
- 6 権力分立の原理
- 7 内閣（1）政府・議会関係
- 8 内閣（2）内閣の権限と責任
- 9 国会の仕組みと機能
- 10 司法権と裁判（1）法律上の争訟と司法権の限界
- 11 司法権と裁判（2）違憲審査制
- 12 選挙制度
- 13 国会と国民代表制
- 14 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

事前に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで用語や概念についてのイメージを掴んでおくことよい。授業後には、判例集も参照しながらレジメや教科書を読み返すこと。

**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%	
期末試験	60%	統治機構（国会・内閣・裁判所）や学説による憲法解釈の内容を正しく理解しているか、またそれらを踏まえた立論ができるかを確認するため、選択式および記述式の試験を実施し、合計点で評価する。
レポート	0%	
平常点	40%	授業で扱った内容を正確に理解しているか否かを確認するための小テストを毎週実施する。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）  
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

【テキスト】  
只野雅人・松田浩編著『現代憲法入門』（法律文化社、2019年）  
斎藤一久・堀口悟郎編著『図録 日本国憲法』第2版（弘文堂、2021年）

【参考文献】  
判例集：『憲法判例百選Ⅰ（第7版）』および『憲法判例百選Ⅱ（第7版）』（有斐閣、2019年）  
法令集：『ポケット六法』（有斐閣）

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考





科目名： 日本国憲法と立憲主義／公法概論A

担当教員： 徳永 貴志

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 月6

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-PU1-T101

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:03:54 更新者： AC7751

更新日時： 2023-12-25 11:03:58

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

日本国憲法の諸原理について、必要に応じて裁判例も参照しながら条文に即して詳しく解説する。国会が制定する法律や行政府による命令は憲法に違反してはならないとされているが、それはなぜか。また、日本国憲法は制定以来半世紀以上改正されていないが、その事実はどうのように評価すればよいか。民主制を採用するわが国において、現在の国民によって民主的に組織される国会や内閣による政治決定よりも、半世紀以上に前に制定された憲法の方が優位するのはなぜか。この講義では、我々を取り巻く具体的な政治問題も取り上げながら、これらの疑問について考える。

前期の「日本国憲法と立憲主義」／「公法概論A」では、憲法総論および統治機構について学ぶ。

**科目目的**

日本国憲法に規定される個別の条項だけではなく、それらの背景にある思想・原理などの学習を通して、「立憲主義」の考え方を身につけることをねらいとする。また、他国の憲法との比較も行うことによって、普遍的な視点で憲法について考える姿勢の習得を目指す。

**到達目標**

履修者は、今日我々が直面している重要な憲法問題の所在を知り、広い視野と柔軟な思考によって、それらの問題を論理的に整理し、自らの価値判断に従って理に適った議論を組み立てることができるようになる。憲法の意味について考える出発点として、統治機構（国会・内閣・裁判所）や学説による憲法解釈の内容を正しく理解する必要があるが、それらの憲法解釈を踏まえたうえで、さらに自らの熟慮を通じて導き出した結論を立場の異なる相手にも説得的に説明できるようになることを目指す。

**授業計画と内容**

- 1 憲法と立憲主義
- 2 大日本帝国憲法
- 3 日本国憲法制定過程
- 4 平和主義
- 5 立憲主義と平和主義
- 6 権力分立の原理
- 7 内閣（1）政府・議会関係
- 8 内閣（2）内閣の権限と責任
- 9 国会の仕組みと機能
- 10 司法権と裁判（1）法律上の争訟と司法権の限界
- 11 司法権と裁判（2）違憲審査制
- 12 選挙制度
- 13 国会と国民代表制
- 14 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

事前に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで用語や概念についてのイメージを掴んでおくことよい。授業後には、判例集も参照しながらレジメや教科書を読み返すこと。

**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%	
期末試験	60%	統治機構（国会・内閣・裁判所）や学説による憲法解釈の内容を正しく理解しているか、またそれらを踏まえた立論ができるかを確認するため、選択式および記述式の試験を実施し、合計点で評価する。
レポート	0%	
平常点	40%	授業で扱った内容を正確に理解しているか否かを確認するための小テストを毎週実施する。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）  
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

- 【テキスト】  
只野雅人・松田浩編著『現代憲法入門』（法律文化社、2019年）  
斎藤一久・堀口悟郎編著『図録 日本国憲法』第2版（弘文堂、2021年）

- 【参考文献】  
判例集：『憲法判例百選Ⅰ（第7版）』および『憲法判例百選Ⅱ（第7版）』（有斐閣、2019年）  
法令集：『ポケット六法』（有斐閣）

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考



科目名： 日本国憲法と人権／公法概論B

担当教員： 徳永 貴志

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 月5

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-PU1-T102

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:03:54 更新者： AC7751

更新日時： 2024-01-03 12:35:40

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

日本国憲法の諸原理について、必要に応じて裁判例も参照しながら条文に即して詳しく解説する。国会が制定する法律や政府による命令は憲法に違反してはならないとされているが、それはなぜか。また、日本国憲法は制定以来半世紀以上改正されていないが、その事実はどのように評価すればよいか。民主制を採用するわが国において、現在の国民によって民主的に組織される国会や内閣による政治決定よりも、半世紀以上に制定された憲法の方が優位するのはなぜか。この講義では、我々を取り巻く具体的な政治問題も取り上げながら、これらの疑問について考える。後期の「日本国憲法と人権／公法概論B」では、日本国憲法に掲げられた人権条項に関わる諸問題について、主に最高裁判所の裁判例を参照しながら学ぶ。

**科目目的**

日本国憲法に規定される個別の条項だけではなく、それらの背景にある思想・原理などの学習を通して、「立憲主義」の考え方を身につけることをねらいとする。また、他国の憲法との比較も行うことによって、普遍的な視点で憲法について考える姿勢の習得を目指す。

**到達目標**

履修者は、今日我々が直面している重要な憲法問題の所在を知り、広い視野と柔軟な思考によって、それらの問題を論理的に整理し、自らの価値判断に従って理に適った議論を組み立てることができるようになる。憲法の意味について考える出発点として、統治機構(国会・内閣・裁判所)や学説による憲法解釈の内容を正しく理解する必要があるが、それらの憲法解釈を踏まえたうえで、さらに自らの熟慮を通じて導き出した結論を立場の異なる相手にも説得的に説明できるようになることを目指す。

**授業計画と内容**

- 1 基本的人権の分類
- 2 表現の自由 (1) 保障内容
- 3 表現の自由 (2) 制約
- 4 信教の自由 (1) 保障内容
- 5 信教の自由 (2) 政教分離原則
- 6 思想・良心の自由
- 7 学問の自由
- 8 法の下での平等
- 9 経済的自由 (1) 職業選択の自由
- 10 経済的自由 (2) 経済活動規制立法の合憲性審査
- 11 財産権 (1) 保障内容
- 12 財産権 (2) 財産権規制立法の合憲性審査
- 13 社会権
- 14 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

事前に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで用語や概念についてのイメージを掴んでおくことよい。授業後には、判例集も参照しながらレジメや教科書を読み返すこと。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%	
期末試験	60%	判例や学説による憲法解釈の内容を正しく理解しているか、またそれらを踏まえた立論ができるかを確認するため、選択式および記述式の試験を実施し、合計点で評価する。
レポート	0%	
平常点	40%	授業で扱った内容を正確に理解しているか否かを確認するための小テストを毎週実施する。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

- 【テキスト】
- 只野雅人・松田浩編著『現代憲法入門』(法律文化社、2019年)
- 斎藤一久・堀口悟郎編著『図録 日本国憲法』第2版(弘文堂、2021年)

- 【参考文献】
- 判例集：『憲法判例百選Ⅰ(第7版)』および『憲法判例百選Ⅱ(第7版)』(有斐閣、2019年)
- 法令集：『ポケット六法』(有斐閣)

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考



科目名： 日本国憲法と人権／公法概論B

担当教員： 徳永 貴志

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 月6

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-PU1-T102

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:03:55 更新者： AC7751

更新日時： 2024-01-03 12:43:28

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

日本国憲法の諸原理について、必要に応じて裁判例も参照しながら条文に即して詳しく解説する。国会が制定する法律や行政府による命令は憲法に違反してはならないとされているが、それはなぜか。また、日本国憲法は制定以来半世紀以上改正されていないが、その事実はどのように評価すればよいか。民主制を採用するわが国において、現在の国民によって民主的に組織される国会や内閣による政治決定よりも、半世紀以上に制定された憲法の方が優位するのはなぜか。この講義では、我々を取り巻く具体的な政治問題も取り上げながら、これらの疑問について考える。後期の「日本国憲法と人権／公法概論B」では、日本国憲法に掲げられた人権条項に関わる諸問題について、主に最高裁判所の裁判例を参照しながら学ぶ。

**科目目的**

日本国憲法に規定される個別の条項だけではなく、それらの背景にある思想・原理などの学習を通して、「立憲主義」の考え方を身につけることをねらいとする。また、他国の憲法との比較も行うことによって、普遍的な視点で憲法について考える姿勢の習得を目指す。

**到達目標**

履修者は、今日我々が直面している重要な憲法問題の所在を知り、広い視野と柔軟な思考によって、それらの問題を論理的に整理し、自らの価値判断に従って理に適った議論を組み立てることができるようになる。憲法の意味について考える出発点として、統治機構(国会・内閣・裁判所)や学説による憲法解釈の内容を正しく理解する必要があるが、それらの憲法解釈を踏まえたうえで、さらに自らの熟慮を通じて導き出した結論を立場の異なる相手にも説得的に説明できるようになることを目指す。

**授業計画と内容**

- 1 基本的人権の分類
- 2 表現の自由 (1) 保障内容
- 3 表現の自由 (2) 制約
- 4 信教の自由 (1) 保障内容
- 5 信教の自由 (2) 政教分離原則
- 6 思想・良心の自由
- 7 学問の自由
- 8 法の下での平等
- 9 経済的自由 (1) 職業選択の自由
- 10 経済的自由 (2) 経済活動規制立法の合憲性審査
- 11 財産権 (1) 保障内容
- 12 財産権 (2) 財産権規制立法の合憲性審査
- 13 社会権
- 14 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

事前に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで用語や概念についてのイメージを掴んでおくことよい。授業後には、判例集も参照しながらレジメや教科書を読み返すこと。

**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週 1 回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1 週間あたり 4 時間の学修を基本とします。
- ・毎週 2 回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1 週間あたり 8 時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%	
期末試験	60%	判例や学説による憲法解釈の内容を正しく理解しているか、またそれらを踏まえた立論ができるかを確認するため、選択式および記述式の試験を実施し、合計点で評価する。
レポート	0%	
平常点	40%	授業で扱った内容を正確に理解しているか否かを確認するための小テストを毎週実施する。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

- 【テキスト】
- 只野雅人・松田浩編著『現代憲法入門』(法律文化社、2019年)
- 斎藤一久・堀口悟郎編著『図録 日本国憲法』第2版(弘文堂、2021年)

- 【参考文献】
- 判例集：『憲法判例百選Ⅰ(第7版)』および『憲法判例百選Ⅱ(第7版)』(有斐閣、2019年)
- 法令集：『ポケット六法』(有斐閣)

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考





科目名： 私法概論／私法概論A

担当教員： 松本 幸治

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 金4

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-LA1-T103

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:03:55 更新者： AD1730

更新日時： 2024-01-08 21:13:03

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

社会生活を送る上で必要な法律知識（買い物・借金・交通事故・相続に関する法律知識）について学修します。講義では、具体的な事例・問題に即した解説を行います。

### 科目目的

社会生活を送る上で法律と無関係でいることは不可能であり、市民には一定の法律知識が求められます。この講義では、大学生または社会人に必要な社会常識・教養としての法律知識を習得することを目的としています。

### 到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- ・財産に関する紛争が生じた場合にどのような解決を図るべきかについて、論理的に考えることができるようになること。
- ・基本的な法律用語を理解し、説明できるようになること。

### 授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス、交通事故と法 (1) 交通事故に関する法的責任
- 第2回 交通事故と法 (2) 不法行為の成立要件
- 第3回 交通事故と法 (3) 不法行為の効果
- 第4回 交通事故と法 (4) 運行供用者責任
- 第5回 交通事故と法 (5) 自賠責保険と任意保険
- 第6回 借金と法 (1) 消費貸借契約
- 第7回 借金と法 (2) 利息に関する法律
- 第8回 借金と法 (3) 人的担保と物的担保
- 第9回 買い物と法 (1) 売買契約
- 第10回 買い物と法 (2) 割賦販売法
- 第11回 買い物と法 (3) 特定商取引法
- 第12回 相続と法 (1) 相続人、相続分
- 第13回 相続と法 (2) 遺言
- 第14回 まとめ

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 80% 講義で取り上げた法制度の内容を理解した上で、その知識を具体的な事例の解決に応用できるか否かを評価します。
- レポート 0%

平常点 20% 授業への参加・貢献度、受講態度、リアクションペーパーの提出回数及び内容を総合的に評価します。  
その他 0%

#### 成績評価の方法・基準(備考)

#### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

#### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

#### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、適宜レジュメを配布します。

#### オフィスアワー

#### その他特記事項

#### 参考URL

#### 備考

**科目名： 主権国家の国際法／国際法A****担当教員： 中坂 恵美子**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：水4

配当年次：1～4年次担当

科目ナンバー：LE-IL1-T105

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:55 更新者：AA1731

更新日時：2024-02-05 20:30:11

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

前期の授業である主権国家と国際法／国際法Aでは、国家の主権が強く作用する分野である、武力の行使、安全保障、主権と自決権などの問題、国家そのものやその管轄権の問題、領域など、国際法の基本的な問題を学びます。

**科目目的**

国際法は原則国家間の法ですが、わたしたち個人の生活に大きな影響を与えているものです。主権国家の国際法／国際法Aはグローバル社会と国際法／国際法Bとともに、各分野の具体的な事例を含めた法制度、さらに総論的に国際法の法としての特徴なども学び、皆さんが国内及び国際社会について考えるときに必要となる知識を増やすことを目的としています。

**到達目標**

武力行使や安全保障、自決権といった国際法の基本概念がわかるようになること。管轄権や領域に関するルールを知識として身につけること。

**授業計画と内容**

1. ガイダンス、国際法の基礎 (テキスト 第1章)
2. 武力行使禁止と自衛権 (第2章)
3. 集団安全保障 (第3章)
4. 主権と自決権 (第4章)
5. 国家・政府の誕生と内戦 (第5章)
6. 国家管轄権 (第6章)
7. 振り返りと小括
8. 管轄権の制限 (第7章)
9. 国家領域 (第8章)
10. 領域使用 (第9章)
11. 海洋法の構造 (第10章)
12. 海洋開発 (第11章) <ゲスト講師>
13. 振り返りと小括
14. 総括・まとめ：主権国家と国際法

※ 振り返りと小括の回は、受講生からの質問に対する回答、受講生同士の討論や発表などを取り入れます。

※ ゲスト講師の回は予定であり、変更の可能性があります。また、順番も変更する可能性があります。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

授業では教科書のすべてを扱えないので、授業で扱わなかった部分は自分で学習してほしい。自習で理解できない部分があったら、積極的に質問をしてほしい。

**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験 70% 今学期に学んだ範囲の国際法の問題について、教科書と授業で学んだことを正確に理解していること。

レポート	0%	
平常点	30%	授業を理解し、自分なりに考えることができること。 ただし無断欠席が 5 回を超える者は成績評価の対象とならない。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

特に小括の回に、受講生からの質問への応答、討論を実施する予定である。

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業中にresponで回答してもらうことがある。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト 山形英郎編『国際法入門 逆から学ぶ』第2版、法律文化社、2018年  
この授業は毎回上記のテキストに基づいて行います。

### オフィスアワー

### その他特記事項

- ・前期授業「主権国家の国際法／国際法A」と後期授業「グローバル社会と国際法／国際法B」で国際法の主要分野をひと通り学習します。テキストも共通ですので、後期授業の継続を勧めます。
- ・上記の授業計画と内容に記載した実施回がずれることがあります。
- ・課題の回答やその他いただいた質問は、匿名で授業中に紹介することがあります。

### 参考URL

### 備考



科目名: グローバル社会と国際法／国際法B

担当教員: 中坂 恵美子

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 水4

配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-IL1-T106

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:03:55 更新者: AA1731

更新日時: 2024-02-05 20:30:58

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

後期の授業であるグローバル社会と国際法／国際法Bでは、外国人法、国際人権法、国際人道法、国際刑事法、国際経済法、国際環境法、国際連合法という個別分野の法に加え、国際法の主体、条約、紛争解決といった総論的な問題を考えていきます。グローバル化により、変化する国際法を学んでください。

**科目目的**

国際法は原則国家間の法ですが、わたしたち個人の生活に大きな影響を与えているものです。グローバル社会と国際法／国際法Bは主権国家の国際法／国際法Aとともに、各分野の具体的な事例を含めた法制度、さらに総論的に国際法の法としての特徴なども学び、皆さんが国内及び国際社会について考えるときに必要となる知識を増やすことを目的としています。

**到達目標**

今期の授業であつかう国際法の各分野の概要について、理解し、説明することができるようになること。

**授業計画と内容**

1. ガイダンス
2. 外国人法 (テキスト第14章)
3. 国際人権法 (第15章)
4. 国際人道法 (第16章)
5. 国際刑事法 (第17章)
6. 国際経済法 (第18章)
7. 振り返りと小括
8. 国際環境法 (第19章)
9. 国際連合法 (第20章)
10. 条約の締結と効力 (第22章)、条約の無効と終了 (第23章)
11. 紛争解決 (第27章)
12. ゲスト講師によるレクチャー
13. 振り返りと小括
14. 総括: グローバル社会と国際法

※ 振り返りと小括の回は、受講生からの質問に対する回答、受講生同士の討論などを取り入れます。

※ ゲスト講師の回は予定であり、変更の可能性があります。また、順番も変更する可能性があります。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

授業では教科書のすべてを扱えないので、授業で扱わなかった部分は自分で学習してほしい。自習で理解できない部分があったら、積極的に質問してほしい。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

- 期末試験 70% 今学期に学んだ範囲の国際法の問題について、教科書と授業で学んだことを正確に理解していること。  
 レポート 0%  
 平常点 30% 授業の内容を理解し、自分で考えることができること。  
 ただし無断欠席が 5 回を超える者は成績評価の対象とならない。  
 その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
 その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート  
 グループワーク  
 プレゼンテーション  
 実習、フィールドワーク  
 その他  
 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

特に小括の回に、受講生からの質問への応答や討論を実施する予定である。

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
 タブレット端末
- ✓ その他  
 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業中にresponで回答をしてもらうことがある。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

山形英郎編『国際法入門 逆から学ぶ』第2版、法律文化社、2018年  
 この授業は毎回上記テキストに基づいて行います。テキスト必携。

### オフィスアワー

### その他特記事項

- ・前期授業「主権国家の国際法／国際法A」と後期授業「グローバル社会と国際法／国際法B」で国際法の主要分野をひと通り学習します。テキストも共通ですので、前期授業からの継続をお勧めします。
- ・上記の授業計画と内容に記載した実施回がずれることがあります。
- ・課題の回答やその他いただいた質問は、匿名で授業中に紹介することがあります。

### 参考URL





科目名: 経済学

担当教員: 鬼丸 朋子

履修年度: 2024 学期: 前期

開講曜日時限: 火2

配当年次: 1~4年次配当

科目ナンバー: LE-EO1-T107

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:03:55 更新者: AA1408

更新日時: 2024-01-05 16:38:58

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

この科目は教職(社会、公民)の必修科目です。そこで、教職課程で社会、公民を選択している学生が、公民や社会の教科書に記載されている内容についての知見を深める一助となるような内容を中心に取り扱っていきます。

### 科目目的

この授業では、経済学の基本的な考え方(の一部)を理解できることを目標とします。

### 到達目標

この授業は、経済学の基本的な考え方を示し、様々な経済問題を分析する視点や知識が習得できるよう進めていきます。こうした知識をもとに、日本経済や日本社会が直面している諸問題を分析する能力を養うことが到達目標です。

### 授業計画と内容

- 第1回 イン트로ダクション(注意事項、講義の狙い、授業の進め方、成績評価の説明等)
- 第2回 「経済」とは
- 第3回 経済学の歩み
- 第4回 需要と供給
- 第5回 GDPとは
- 第6回 戦後の日本経済の歴史
- 第7回 市場経済とは
- 第8回 「政府」の役割—財政の役割と仕組み
- 第9回 「金融」とは
- 第10回 日本銀行の役割
- 第11回 「会社」とは
- 第12回 「日本的雇用慣行」が抱える課題
- 第13回 「社会保障」とは
- 第14回 全体のまとめ

※授業の進度によって、講義計画を変更・調整する可能性があります。その際は、授業中に適宜アナウンスいたします。

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- |      |     |   |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 45% | 授業期間中に複数回・不定期の小テストを実施します。複数回の小テストを合計すると、45点満点になります。 |
| 期末試験 | 55% | 期末に筆記試験を実施します(記述問題)。期末試験は55点満点です。詳細については授業内で説明します。  |
| レポート | 0%  |   |

平常点	0%
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク
- ✓ その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業に関する質問について、manaba上で受け付け、講義やmanabaで回答します。

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業時の質問の受付、課題やレポートの提出等で適宜manabaを使用します。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

- テキスト  
・テキスト：八田幸二・佐藤拓也・武田勝『攻略!!日本経済-改訂2版』学文社、2019年  
・その他：授業中に、必要に応じて資料を配布することがあります。

### オフィスアワー

### その他特記事項

- ・1回目の授業で、授業の進め方や小テストの実施方法、単位取得に関する説明等を行います。履修の意思がある者は必ず1回目の授業を受講してください。
- ・担当教員のメールアドレス tonimaru001z@g.chuo-u.ac.jp

### 参考URL

### 備考

この科目は教職 (社会、公民)の必修科目です。

科目名: 経済学

担当教員: 鬼丸 朋子

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 火3

配当年次: 1~4年次配当

科目ナンバー: LE-EO1-T107

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:03:56 更新者: AA1408

更新日時: 2024-01-05 16:39:10

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

この科目は教職(社会、公民)の必修科目です。そこで、教職課程で社会、公民を選択している学生が、公民や社会の教科書に記載されている内容についての知見を深める一助となるような内容を中心に取り扱っていきます。

### 科目目的

この授業では、経済学の基本的な考え方(の一部)を理解できることを目標とします。

### 到達目標

この授業は、経済学の基本的な考え方を示し、様々な経済問題を分析する視点や知識が習得できるよう進めていきます。こうした知識をもとに、日本経済や日本社会が直面している諸問題を分析する能力を養うことが到達目標です。

### 授業計画と内容

- 第1回 イン트로ダクション(注意事項、講義の狙い、授業の進め方、成績評価の説明等)
- 第2回 「経済」とは
- 第3回 経済学の歩み
- 第4回 需要と供給
- 第5回 GDPとは
- 第6回 戦後の日本経済の歴史
- 第7回 市場経済とは
- 第8回 「政府」の役割—財政の役割と仕組み
- 第9回 「金融」とは
- 第10回 日本銀行の役割
- 第11回 「会社」とは
- 第12回 「日本的雇用慣行」が抱える課題
- 第13回 「社会保障」とは
- 第14回 全体のまとめ

※授業の進度によって、講義計画を変更・調整する可能性があります。その際は、授業中に適宜アナウンスいたします。

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- |      |     |  |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 45% | 授業期間中に複数回・不定期の小テストを実施します。複数回の小テストを合計すると、45点満点になります。詳細については授業内で説明します。 |
| 期末試験 | 55% | 期末に筆記試験を実施します(記述問題)。期末試験は55点満点です。詳細については授業内で説明します。                   |
| レポート | 0%  |  |

平常点	0%
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業に関する質問について、manaba上で受け付け、講義中に回答していきます。

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業に関する質問について、manaba上で受け付け、講義やmanabaで回答します。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

- テキスト
- ・テキスト：八田幸二・佐藤拓也・武田勝『攻略!!日本経済-改訂2版』学文社、2019年
- ・その他：授業中に、必要に応じて資料を配布することがあります。

### オフィスアワー

### その他特記事項

- ・1回目の授業で、授業の進め方や小テストの実施方法、単位取得に関する説明等を行います。履修の意思がある者は必ず1回目の授業を受講してください。
- ・担当教員のメールアドレス tonimaru001z@g.chuo-u.ac.jp

### 参考URL

### 備考

この科目は教職 (社会、公民)の必修科目です。

科目名： 国際経済学／国際経済学A

担当教員： 陳 建安

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 木4

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-NE1-T108

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:03:56 更新者： AA1941

更新日時： 2023-12-31 16:44:05

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

国際貿易の基礎理論を紹介し、国際貿易政策の基本的なツールとその効果を解説します。国際化とグローバル化の視点から、GATT/WTOの仕組みや課題及び地域的経済統合の現状、効果とその問題点を分析します。また、国際直接投資の基礎理論を講義し、国際直接投資の世界経済と受入国経済発展へのインパクトを考察します。そして、国際金融の基礎理論や国際通貨制度を紹介し、国際金融政策と国内経済政策との関連性などを解明します。

**科目目的**

本講義は、国際経済学の基本的な知識を習い、国際貿易、国際直接投資と国際金融の動きをある程度理解させることを目的とします。

**到達目標**

本講義は、学生が習得した知識をもって国際貿易、国際直接投資と国際金融の動向を簡単に分析できるようになることを目標とします。

**授業計画と内容**

講義を主としますが、場合にはディスカッションも行います。

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：国際貿易理論1：自由貿易主義の理論
- 第3回：国際貿易理論2：保護貿易主義の理論
- 第4回：国際貿易政策1：関税政策
- 第5回：国際貿易政策2：非関税政策
- 第6回：世界貿易体制：GATT/WTO
- 第7回：地域経済統合
- 第8回：国際直接投資の理論
- 第9回：国際直接投資の実践
- 第10回：国際収支とその調整
- 第11回：為替レート決定の理論
- 第12回：為替市場介入と国際マクロ経済政策
- 第13回：国際通貨制度
- 第14回：総括

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと  
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

毎回講義の前に、指定した参考書やmanabaに配布した資料を必ず読み、授業のポイントについて理解した上で出席すること。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)**

- 中間試験 0%
- 期末試験 70% 質問への回答の正確性で評価

レポート	0%	
平常点	30%	出席状況や質疑応答など
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

出席状況、質疑応答、期末試験の得点などによって総合的に評価します。

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

- ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

Webex, manaba, etc.

### 実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

浦田 秀次郎, 小川 英治 他著、『はじめて学ぶ 国際経済』(新版)、有斐閣アルマ、2022年8月。

### オフィスアワー

### その他特記事項

特にありません。

### 参考URL

### 備考

**科目名：政治学****担当教員：荒井 紀一郎**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：金4

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-PS1-T109

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:56 更新者：AA0945

更新日時：2024-01-07 21:03:15

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

議会における与野党の攻防や選挙における政権交代、政策決定過程における利益団体と政治家、官僚との間で行われる駆け引き、さらには国家間における戦争や紛争といった政治現象は、政治家、官僚、利益団体、そして有権者などの政治過程に関わる様々なアクターと、政治経済制度との相互作用によって起きている。本講義では、そうした政治現象を科学的に理解するための「理論」と「モデル」の基礎について解説していく。まず、学期前半には各政治アクターの行動を説明するための理論とモデルについて解説する。次いで、学期後半ではアクター同士、あるいはアクターと制度との相互作用を理解するためのモデルを紹介する。

**科目目的**

政治学における理論、モデル、そして方法の基礎について解説する。

**到達目標**

到達目標は以下3点

1. 政治現象を説明するための基礎的な理論とモデルについて理解する
2. 政治にかかわる様々なアクターの行動メカニズムについて理解する
3. 政治現象の分析手法の基礎を身につける

**授業計画と内容**

パートI:政治アクターの行動メカニズム

第01講 政治アクターの行動メカニズム1:社会学モデルと心理学モデル

第02講 政治アクターの行動メカニズム2:経済学モデル

第03講 有権者:政治的価値観、政治的洗練性、党派性

第04講 議員:議員の行動インセンティブ、デュベルジェの法則

第05講 政党:連合形成、政党の機能

第06講 官僚:本人-代理人関係、政党優位論、官僚優位論

パートII:規範理論と○○ism

第07講 イデオロギー、規範理論

第08講 政治と政治学

パートIII:アクターと制度との相互作用

第09講 有権者 vs. 議員1:政治参加

第10講 有権者 vs. 議員2:投票行動

第11講 メディア vs. 有権者 vs. 政府:アジェンダセッティング、フレーミング、プライミング

第12講 利益団体 vs. 官僚 vs. 政治家:族議員と議員連盟、少数者の支配、鉄の三角同盟

第13講 国家 vs. 国家:紛争の発生メカニズム、悪魔の弁護人

第14回 総括・理解度の確認:政治学の理論と方法

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。



## 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	70%	・政治学の理論と方法の基礎について理解できているか ・社会科学における規範理論と実証理論との関係について理解できているか
レポート	0%	
平常点	30%	学期中に5回テストを実施する。テストの難易度は期末試験同等レベルとする。
その他	0%	

## 成績評価の方法・基準(備考)

上記の他に授業への貢献によって加点することがある。

## 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

## 課題や試験のフィードバック方法(その他)

## アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

## アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

## 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

## 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

## 実務経験に関連する授業内容

## テキスト・参考文献等

教科書は特に指定しない。講義資料は、すべてmanabaにアップロードされているので、各自ダウンロード、プリントアウトして持参すること。授業時の配布は行わない。以下、5冊を参考書として推奨する。

- 理論参考書  
砂原庸介・稗田健志・多湖淳. 2015. 『政治学の第一歩』有斐閣ストゥディア.  
飯田健・松林哲也・大村華子. 2015. 『政治行動論』有斐閣ストゥディア.
- 方法論参考書  
久米郁男. 2013. 『原因を推論する』有斐閣
- 政治制度や政党名などの基礎的な事項について確認しておきたい人のための入門書  
福井英次郎(編). 2019. 『基礎ゼミ 政治学』世界思想社  
西山 隆行(編)・向井 洋子(編). 2023. 『図録 政治学』弘文堂

## オフィスアワー

### その他特記事項

- 障害者差別解消法に基づく合理的配慮を希望する場合には、履修登録期間中に本学が定める正式な手続きによって申請すること。学期後半での申請、あるいは担当教員や他の受講生にとって過大な負担となるような申請には応じない。
- 大学設置基準では授業への出席を単位認定の前提している。したがって、いかなる理由、事情においても授業の欠席に対しては一切の配慮を行わない。
- 本科目の履修者は、このシラバスを熟読し、理解した上で履修登録を行っているものとみなす。

### 参考URL

担当教員ウェブサイト  
<https://www.arai.fps-chuo-univ.jp/>

### 備考

この科目はオンライン形式です。 この科目は教職（社会、公民）の必修科目です。

---

**科目名：政治学****担当教員：荒井 紀一郎**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：金5

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-PS1-T109

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:56 更新者：AA0945

更新日時：2024-01-07 21:06:06

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

議会における与野党の攻防や選挙における政権交代、政策決定過程における利益団体と政治家、官僚との間で行われる駆け引き、さらには国家間における戦争や紛争といった政治現象は、政治家、官僚、利益団体、そして有権者などの政治過程に関わる様々なアクターと、政治経済制度との相互作用によって起きている。本講義では、そうした政治現象を科学的に理解するための「理論」と「モデル」の基礎について解説していく。まず、学期前半には各政治アクターの行動を説明するための理論とモデルについて解説する。次いで、学期後半ではアクター同士、あるいはアクターと制度との相互作用を理解するためのモデルを紹介する。

**科目目的**

政治学における理論、モデル、そして方法の基礎について解説する。

**到達目標**

到達目標は以下3点

1. 政治現象を説明するための基礎的な理論とモデルについて理解する
2. 政治にかかわる様々なアクターの行動メカニズムについて理解する
3. 政治現象の分析手法の基礎を身につける

**授業計画と内容**

パートI:政治アクターの行動メカニズム

第01講 政治アクターの行動メカニズム1:社会学モデルと心理学モデル

第02講 政治アクターの行動メカニズム2:経済学モデル

第03講 有権者:政治的価値観、政治的洗練性、党派性

第04講 議員:議員の行動インセンティブ、デュベルジェの法則

第05講 政党:連合形成、政党の機能

第06講 官僚:本人-代理人関係、政党優位論、官僚優位論

パートII:規範理論と○○ism

第07講 イデオロギー、規範理論

第08講 政治と政治学

パートIII:アクターと制度との相互作用

第09講 有権者 vs. 議員1:政治参加

第10講 有権者 vs. 議員2:投票行動

第11講 メディア vs. 有権者 vs. 政府:アジェンダセッティング、フレーミング、プライミング

第12講 利益団体 vs. 官僚 vs. 政治家:族議員と議員連盟、少数者の支配、鉄の三角同盟

第13講 国家 vs. 国家:紛争の発生メカニズム、悪魔の弁護人

第14回 総括・理解度の確認:政治学の理論と方法

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

## 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	70%	・政治学の理論と方法の基礎について理解できているか ・社会科学における規範理論と実証理論との関係について理解できているか
レポート	0%	
平常点	30%	学期中に5回テストを実施する。テストの難易度は期末試験同等とする。
その他	0%	

## 成績評価の方法・基準(備考)

上記の他に授業への貢献によって加点することがある。

## 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

## 課題や試験のフィードバック方法(その他)

## アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

## アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

## 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

## 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

## 実務経験に関連する授業内容

## テキスト・参考文献等

教科書は特に指定しない。講義資料は、すべてmanabaにアップロードされているので、各自ダウンロード、プリントアウトして持参すること。授業時の配布は行わない。以下、5冊を参考書として推奨する。

- 理論参考書  
砂原庸介・稗田健志・多湖淳. 2015. 『政治学の第一歩』有斐閣ストゥディア.  
飯田健・松林哲也・大村華子. 2015. 『政治行動論』有斐閣ストゥディア.
- 方法論参考書  
久米郁男. 2013. 『原因を推論する』有斐閣
- 政治制度や政党名などの基礎的な事項について確認しておきたい人のための入門書  
福井英次郎(編). 2019. 『基礎ゼミ 政治学』世界思想社  
西山 隆行(編)・向井 洋子(編). 2023. 『図録 政治学』弘文堂

## オフィスアワー

### その他特記事項

- 障害者差別解消法に基づく合理的配慮を希望する場合には、履修登録期間中に本学が定める正式な手続きによって申請すること。学期後半での申請、あるいは担当教員や他の受講生にとって過大な負担となるような申請には応じない。
- 大学設置基準では授業への出席を単位認定の前提している。したがって、いかなる理由、事情においても授業の欠席に対しては一切の配慮を行わない。
- 本科目の履修者は、このシラバスを熟読し、理解した上で履修登録を行っているものとみなす。

### 参考URL

担当教員ウェブサイト  
<https://www.arai.fps-chuo-univ.jp/>

### 備考

この科目はオンライン形式です。 この科目は教職（社会、公民）の必修科目です。

---

科目名： 国際政治学／国際政治学A

担当教員： 今井 宏平

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 金2

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-IN1-T110

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:03:57 更新者： AC8466

更新日時： 2024-01-08 17:37:19

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

本講義では、幅広い視点から現代の国際政治について理解することを目的とする。そのために、国際関係論の基礎的な概念である主権国家、安全保障、移民、難民、ナショナリズムについて歴史を踏まえて検討する。また、こうした基礎的な概念を学ぶ際に国際政治学の理論（リアリズム、リベラリズム、コンストラクティヴィズムなど）も交えて説明する。さらに安全保障化（セキュリティ化）、文明の衝突、民主主義と権威主義といった、現代の国際政治を理解するために必要な視点についても説明する。最後に日本における国際関係論の発展についても概観する。

**科目目的**

本講義の科目目的は、学生が学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示されている「幅広い教養」と「複眼的思考」を修得することである。

**到達目標**

本講義の到達目標は、日々の国際政治に関して新聞や報道、SNSを鵜呑みにするのではなく、自らの視点で分析し、自分なりの意見を持つ土台を築くことである。

**授業計画と内容**

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：主権国家
- 第3回：覇権
- 第4回：非国家主体
- 第5回：移民・難民
- 第6回：シリア難民の現状
- 第7回：安全保障
- 第8回：国際政治における脅威
- 第9回：戦争・紛争とその予防
- 第10回：ナショナリズム
- 第11回：文明の衝突とその予防
- 第12回：民主主義国と権威主義国
- 第13回：日本における国際関係論の発展
- 第14回：総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと  
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

毎回の授業について、テキスト、参考文献、配布資料を用いて予習・復習をする。普段から新聞やテレビなど各種メディアで国際ニュースをチェックする。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- 中間試験 0%
- 期末試験 50% 期末試験は50点分は毎週の小テストの復習、残り50点分は授業で扱った問題や概念を用いての記述問題とする。

レポート	0%
平常点	50% 毎授業の最初に前の週の復習を兼ねた出席代わりの小テストを実施する。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

毎授業の小テストと期末試験の合計の点数により判断する。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー  
タブレット端末  
その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

【テキスト】  
テキストは指定しない。基本的にレジユメを配布して授業を進める。

【参考文献】  
今井宏平『国際政治理論の射程と限界：分析ツールの理解に向けて』中央大学出版部、2017年。  
エリカ・フランツ (上谷直克・今井宏平・中井遼訳) 『権威主義:独裁政治の歴史と変貌』白水社、2021年。  
中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013年。  
パトリック・キングズレー『シリア難民 人類に突きつけられた21世紀最悪の難問』ダイヤモンド社、2016年。  
廣瀬陽子『未承認国家と覇権なき世界』NHK出版、2014年。

※その他の参考文献は授業中に提示する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL





**科目名： 映画史／映画論A****担当教員： 山口 雅敏**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：水5

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-AS1-T201

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:57 更新者：AB4683

更新日時：2024-01-07 11:26:21

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

映画の黎明期から現在に至るまでの映画史的な事実を参照しながら、映画の構成要素である「ショット」について考察していきます。適宜、いくつかの作品を取り上げ、ショットの分析を試みる予定です。また、レポートを書いてもらうための作品鑑賞も行います。

**科目目的**

映画史的な知識はもとより、映画の技法なども確認しながら、映画とはどのような表現形式なのかを考えることで、現在の映画に対する批評眼を養うことを目的とします。

**到達目標**

映画史と映画技法に関する知識に基づいて、映画を分析できるようになることを目標とします。

**授業計画と内容**

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 映画の「ショット」の基本技法
- 第3回 映画前史（映画の誕生までの歴史）
- 第4回 リュミエール兄弟の「ショット」
- 第5回 メリエスのトリック映画と「ショット」
- 第6回 ドイツ表現主義の「ショット」
- 第7回 グリフィスとドライヤーのクロースアップ 鑑賞1『ジャンヌダルク裁判』
- 第8回 ディープ・フォーカス ウェルズとルノワールの場合
- 第9回 ワンシーン・ワンショット（長回し） 鑑賞2『偉大なるアンバーソン家の人々』
- 第10回 主観ショットと客観ショット ヒッチコックを中心にして
- 第11回 移動撮影（カメラワーク）
- 第12回 シンメトリーの構図とフレーム内フレーム
- 第13回 小津のローアングルとジャームッシュの固定ショット
- 第14回 補遺 スラップスティック・コメディ

**授業時間外の学修の内容**

- 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出

- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

- ・授業で指定した映画作品をできる限り視聴してもらいます。
- ・アマゾン・プライムなどを利用して、古今東西の映画をできるだけ多く観てほしいです。

**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%
- レポート 70% レポートを2本提出してもらいます。第1回のレポートは、こちらの指定した映画を映画館に観に行っても

らう予定です。第2回のレポートは、DVDなどで視聴可能な映画について書いてもらいます。

平常点 30% 適宜、授業で取り上げた映画作品についてのコメントなどを提出してもらいます。

その他 0%

#### 成績評価の方法・基準(備考)

#### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

#### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

#### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

参考文献

運実重彦『映画論講義』東京大学出版

#### オフィスアワー

#### その他特記事項

- ・後期の授業と合わせて履修することが望ましいです。
- ・映画館に映画を観に行ってもらいます。
- ・YouTubeやAmazon Prime Videoなどが視聴可能であることを前提とします。

#### 参考URL

この授業は、仏文学専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

#### 備考

科目名： 映画論・映画批評／映画論B

担当教員： 山口 雅敏

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 水5

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-AS1-T202

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:03:57 更新者： AB4683

更新日時： 2024-01-07 11:39:14

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

映画の「モンタージュ」について考察します。映画作品がショットの組み合わせ（モンタージュ）によって成り立っていることを確認しながら、モンタージュの持つ意味を検討していきます。前期同様、適宜、いくつかの作品を取り上げて、分析を行う予定です。また、レポートを書いてもらうための作品鑑賞を行ってまいります。

### 科目目的

「モンタージュ」に関する映画史的な事柄を確認しながら、映画とはどのような表現形式なのかを考えることで、現在の映画に対する批評眼を養うことを目的とします。

### 到達目標

映画史的な知識や映画の技法に関する知識に基づて、映画作品を分析的に鑑賞することができるようになることを目標とします。

### 授業計画と内容

- 第1回 前期に学んだ基本事項の再確認。
- 第2回 デクパージュとモンタージュ
- 第3回 メリエスのトリック映画とモンタージュ
- 第4回 グリフィスのモンタージュ（クロスカッティング）
- 第5回 クレショフの実験とモンタージュ
- 第6回 エイゼンシュタインのモンタージュ理論 鑑賞1『戦艦ポチョムキン』
- 第7回 ジガ・ヴェルトフのモンタージュ
- 第8回 フランス印象主義のモンタージュ
- 第9回 シュールレアリスムのモンタージュ
- 第10回 表現主義のモンタージュからヒッチコックへ
- 第11回 ウェルズの反モンタージュ（ロングテイク）
- 第12回 ネオレアリスムの反モンタージュ
- 第13回 ゴダールのジャンプ・カット 鑑賞2『勝手にしやがれ』
- 第14回 補遺 ミュージカル映画

### 授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ・授業で取り扱う映画作品を、DVDやアマゾンプライムなどで、できる限り視聴してほしいです。
- ・レポートの課題以外にも、可能な限り映画館で映画を観てほしいです。

### 授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

中間試験 0%

期末試験	0%	
レポート	70%	レポートを2本提出してもらいます。1本は、こちらの指定した映画作品を映画館で観て、書いてもらいます。もう1本は、DVDやAmazonプライムなどで視聴できる映画作品について書いてもらいます。
平常点	30%	適宜、授業で取り上げた映画作品について、コメントなどを書いてもらうかもしれません。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

参考図書

蓮實重彦『映画論講義』東京大学出版

### オフィスアワー

### その他特記事項

- ・前期の授業と合わせて履修することが望ましいです。
- ・映画館に映画を観に行ってもらいます。
- ・YouTubeやAmazon Prime Videoなどが視聴できることを前提とします。

### 参考URL

この授業は、仏文学専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

### 備考



科目名： 日本美術史(近世以前)／日本美術史A

担当教員： 近藤 暁子

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 火2

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-HR1-T204

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:03:58 更新者： AD0398

更新日時： 2024-01-06 20:38:49

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

古代から近世までの主要な美術作品について、画像を提示しながら作品の様式・作風といった時代の特徴や作品が生み出された社会背景について解説し、日本美術の流れを紹介します。

また、現存する美術作品は私たちが最も身近に接することのできる「歴史」そのものでもあります。芸術作品のもつ歴史資料としての側面についても触れ、その多様性についても感じていただきたいと思います。さらに実作品と接する機会となる展覧会などについてもタイムリーな情報を伝え、積極的にその機会を促します。

**科目目的**

古代から近世まで、日本美術史の基本的な流れを理解するとともに、美術作品を生み出した社会背景との関係性にも着目することを目的とします。

**到達目標**

講義で紹介される様々な作品を見ることにより作品鑑賞の視点を養い、自分で興味を持てる作品を見つけて日本美術に親しみを抱くとともに、講義終了後も将来的に日本美術・文化に興味関心を持てるようになることを目標とします。

**授業計画と内容**

- 第1回 インTRODクシヨソ 美術史を学ぶということ
  - 第2回 飛鳥時代
  - 第3回 奈良時代
  - 第4回 平安時代1 密教の影響から和様化へ
  - 第5回 平安時代2 王朝の美術
  - 第6回 平安時代3 院政期の美術
  - 第7回 鎌倉・南北朝時代1 彫刻作品の展開
  - 第8回 鎌倉・南北朝時代2 絵画作品の展開
  - 第9回 室町時代
  - 第10回 桃山時代
  - 第11回 江戸時代1 絵画作品の展開1 江戸時代前半を中心に
  - 第12回 江戸時代2 絵画作品の展開2 江戸時代後半を中心に
  - 第13回 江戸時代3 彫刻作品と工芸品の展開
  - 第14回 まとめ
- ※なお、授業計画は、順序や内容が若干変更する可能性もあります

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

必須ではありませんが、興味を持った参考文献について、授業に関する部分に事前に目を通しておくと、授業内容に対する理解をより深めることができると思います。また、授業後に参考文献を紐解くことも同様の効果が得られるので推奨します。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験	100%	授業内容に関わるテーマについて、記述式の試験を行います。授業内容を理解し、自分なりの観点から記述できるかを評価します。
レポート	0%	
平常点	0%	
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業内容に関する質問等については、manabaの掲示板等の機能により対応を考えています。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

博物館・美術館に勤務する実務経験なども踏まえて講義します。

### 実務経験に関連する授業内容

展覧会などを通じて、積極的に実作品に接する機会を設けていただくことを希望します。そのため、実作品と接する機会となる展覧会などについても特に講義に関連する情報を伝え、その機会を促すことを心がけていきます。

### テキスト・参考文献等

【テキスト】

必要に応じて、授業時、もしくは事前にmanabaで配布します。

【参考文献】

・辻惟雄監修 『カラー版 日本美術史』 (増補新装版) 美術出版社 2003年

・辻惟雄 『日本美術の歴史』 東京大学出版会 2005年

・『日本美術全集』全20巻 小学館 2012～2016年

その他、必要に応じて授業中に紹介します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考





**科目名： 日本美術史(近現代)／日本美術史B****担当教員： 三上 美和**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：木2

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-HR1-T205

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:59 更新者：AC5627

更新日時：2024-01-02 18:43:43

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

日本近現代の美術史の基本的な流れとあわせ、美術と工芸の代表的な作例を紹介しします。毎回数多くの美術、工芸作品を紹介ししますが、それらはいずれも作られた時から今まで大切に守り伝えられたものです。授業ではそのような観点から、作品が作られた時代背景についてもお話しします。本講義が多くの作品と皆さんとの出会いの場となれば幸いです。

受講者は事前に高校生用の日本史の教科書の近代以降の箇所を確認し、受講後は配布資料を読み返してよく復習してください。さらに、レジュメに記載した参考文献に目を通すと、より理解が深まるでしょう。

講義は幕末以降の近代美術を扱いますが、言うまでもなく、それらは前近代と密接につながっています。受講者はできるだけ前期の講義を受講し、江戸時代までの日本美術の流れについてのおおまかな内容を踏まえておくことをおすすめします（授業ガイダンスでも日本美術史の基礎的な文献を紹介しします）。

講義の冒頭では、レポートの課題の参考にもなるように、毎回授業に関わる展覧会を紹介しします。また、講義の最後の15分程度、授業についての感想を書く時間を設けます。それらは出席を確認するためもありますが、皆さんが講義の内容に集中し、期末レポートをまとめる際の参考にすることを目的としています。皆さんの積極的な参加によって、お互い有意義な時間になることを期待しています。

**科目目的**

本科目の目的は、近現代の日本美術史における基本的な作品と、それらが生み出された背景を理解することです。

**到達目標**

授業で近現代の作品とそれらが作られた社会背景を知ることにより、近現代美術に関する基本的な見方を習得し、将来、自分で日本美術を楽しむながら学ぶ土台作りを行うことを到達目標とします。

**授業計画と内容**

授業計画（進捗状況により、若干変更する場合があります）

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 美術とは？日本美術の始まり
- 第3回 明治の洋画
- 第4回 幕末から明治の日本画
- 第5回 岡倉天心、フェノロサと明治の日本画
- 第6回 明治以降の京都の日本画
- 第7回 明治以降の彫刻
- 第8回 芸術の支援者 原三溪
- 第9回 大正から昭和の美術と工芸
- 第10回 大正から昭和の関西画壇
- 第11回 昭和戦前の洋画
- 第12回 戦後の美術（1）日本画
- 第13回 戦後の美術（2）洋画、彫刻、工芸
- 第14回 まとめと補足

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと  
授業終了後の課題提出  
その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

前回の講義を配布資料を読み返す、参考文献を読むなどでよく復習すること、次回の配布資料を講義前によく読んで予習すること。また、さらに余裕があれば、授業に関連したテレビ番組の視聴、関連する展覧会見学、美術館のホームページ閲覧も授業時間外の学修とします。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	70%	1) レポートの課題に適切に応えられているか。 2) レポートの体裁が整えられているか。
平常点	30%	講義に積極的に参加しているかどうかを、平常点(下記の「備考」参照)で評価する。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

「平常点」について

- 1) 講義の冒頭の点呼
- 2) 最後の最後でmanabaのレスポンスを通じて提出する感想文

以上の1)、2)をもって出席とします。初回ガイダンスでも伝えますが、感想文はmanabaから提出します。その場で間に合わない人は、授業後15分以内にmanaba上にアップしてください。

\*冒頭の出席の点呼で呼ばれた人のみ、manaba上で感想文を提出してください。レスポンスで出席の登録をしなかった人は、感想文を記載しても出席と認めません。

### 課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

- ・マナバのレスポンスを使った出欠確認。
- ・授業の感想のマナバのレポート提出(授業参加者の相互閲覧により、出席者同士のコミュニケーションを図る)。

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

美術館学芸員の経験を踏まえて講義します。

### 実務経験に関連する授業内容

美術館で勤務している経験を活かし、美術館や博物館の展覧会などの最新情報も積極的に発信することで、受講生が展覧会などで作品に接し、日本美術を身近なものとしてとらえられるような授業を行います。

### テキスト・参考文献等

辻惟雄監修『カラー版 日本美術史』（増補新装版）美術出版社、2002年、  
林洋子編『芸術教養シリーズ8 アジア・アフリカと新しい潮流 近現代の芸術史 造形篇II』幻冬舎、2013年  
その他、授業中に適宜紹介します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

講義の最後に授業内容の振り返りと質疑応答の時間を設けます。双方向の授業のときには、授業の理解度を図り、かつ積極的な参加をうながすため、受講生に意見を求める場合があります。

講義では美術作品とあわせて、「美術」の用語や概念が近代以降に登場しれたことなど、皆さんにとって意外に思われる事実も取り上げます。レジュメや講義の動画を通じて、日本美術の面白さを少しでも伝えられたら嬉しく思います。皆さんも自分のお気に入りの作品を見つけるつもりで、積極的に授業に参加してください。

質問や感想は、授業の最後の時間に直接質問する以外に、manabaの掲示板を通じて提出しても結構です。お互いの疑問や感想を共有することで、授業の理解が深まることを期待しています。

### 参考URL

### 備考

---

**科目名：音楽／音楽A**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：木2

**担当教員：渡辺 祐介**

配当年次：1～4年次担当

科目ナンバー：LE-AS1-T208

登録者：admin

登録日時：2023-10-26 07:00:51 更新者：XEC419

更新日時：2024-02-24 19:49:48

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

「音楽」が無条件・野放図に溢れている現代、普段私たちが耳にしている音楽のルーツを辿っていくことで、「いま」音楽に触れること・自ら音楽を発信していくことの根本的意義を考える。

**科目目的**

音楽・比較音楽の授業は、総合教育科目内の一般教養としての科目になります。西洋音楽そのものへの理解を深めることのみならず、その時代その時代の社会背景、音楽と社会システム、他の芸術との関わりを学ぶことで、音楽を中心としてより広い芸術分野への理解を深めることを目的とします。

**到達目標**

日常的に聴いている「音楽」（クラシック、ポピュラー音楽、民族音楽等）の共通の特徴は何か。それが様々な民族音楽とどう違うのか。その具体的な違いを耳でわかるようになること。また「楽音を使っているのか、ノイズが優勢か」「拍子感覚はどの程度あるのか」「ハーモニーの概念はあるのか」の三点について、分析的に考察できるようになること。また、歴史的に社会がどのようなタイプの音楽を求めるようになっていったのか、歴史的観点から論ずることができるようになること。

**授業計画と内容**

1. オリエンテーション - 西洋音楽の歴史を学ぶ意味
2. 古楽・クラシック・現代音楽—西洋音楽の三つのエポックについて
3. 多声音楽の始まり
4. 中世音楽の黄金時代と衰退
5. ルネサンス前期と無伴奏合唱
6. ルネサンス後期と劇化する音楽
7. バロック音楽と絶対王政
8. 「音楽の父」バッハ
9. ウィーン古典派と近代市民音楽の始まり
10. ベートーヴェンの特異さと偉大さ
11. ロマン派音楽の美学
12. ロマン派と芸術宗教
13. 前衛への越境と近現代音楽
14. まとめ

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

個人の趣味嗜好に関わらず、あらゆるジャンルの音楽を聴いてみる。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- |      |   |
|------|---|
| 中間試験 | 0%  |
| 期末試験 | 30% manaba上で作文形式で提出。自らの考えをしっかりと文章で表現出来ているか。     |
| レポート | 30% 扱った作品に関するレポートを作成し提出する（毎週ではなく、こちらが課題を出した時のみ） |

平常点 40% 授業の資料を読み込み、そこで取り上げられている音楽作品を聴いてみたか。  
その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
  - その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

声楽家 (バス)、指揮者。主にバロック～古典派の声楽作品でソロ、アンサンブル歌手として活動。また、2018年より若いピリオド楽器 (いわゆる古楽器) 奏者が結集したオーケストラ「オルケストル・アヴェン＝ギャルド」の音楽監督として、特にベートーヴェンの作品を多数指揮・演奏している。

### 実務経験に関連する授業内容

クラシック音楽作品を紹介する際、演奏家目線での捉え方も盛り込んでいく。また、声楽家としての視点から音楽の持つ幅広い「歌謡性」にも触れていきたい。

### テキスト・参考文献等

参考文献 ①著者 ②書名 ③出版社、出版年、出版地

岡田暁生「西洋音楽史」(中公新書)、中央公論新社、2005年、日本

### オフィスアワー

### その他特記事項

西洋音楽史を14回の授業で俯瞰するのは非常に大変ですので、一回一回の授業を大切にしてください。  
授業内容での不明な点は授業中に質問して下さって結構ですし、授業後に教員に直接質問して下さっても構いません。また、manabaでの質問等も随時受け付けます。

### 参考URL

### 備考

科目名： 科学史

担当教員： 三富 照久

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 月4

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-HO1-T304

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:55:38 更新者： AC3591

更新日時： 2024-01-08 11:08:51

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

現代において「科学」は決定的な役割を果たしています。この「科学」の役割は、自然科学として理系と文系に単純に区別できる様なものではありません。そしてこの「科学」の役割は、高校までの公教育では十分に考慮されていません。

この授業では、まず第一に「科学」を人間の営みとしての「文化」として考え、その様な「科学」の役割を、歴史的に解明する事を目標としています。例えば「近代」市民社会の基本単位である個人 (dividual) も、17世紀西欧の「科学革命」で復活した不可分 (indivisible) な原子の思想と対応関係にあります。

現代では「科学」は実験により検証された (確実な) 真理であり、技術は科学の現実的な応用として科学と技術は現代文明 (技術革新、資本主義、グローバリズムなど) を支える基盤として、密接に関係していると見なされています。しかし、この科学観・真理観は17世紀の科学革命を経て、19世紀頃にヨーロッパのみに確立したものであり、西欧列強の帝国主義・資本主義の拡大によって、幕末・明治期の日本を含めて世界に広まったのです。(この「近代」も、西欧独自の発明と考える事ができます)

その意味では「なぜヨーロッパのみに、近代科学が成立したか?」という根本的な歴史的問題があり、この講義ではその問いを一つのテーマとして、各時代・地域の学問観やその背景を比較考察して、近代科学が成立する道筋を明らかにしていきます。さらに19世紀以降は、科学の制度化と科学と技術の連携などの問題も、歴史的なテーマとして考察します。

**科目目的**

科学を単なる「数学・理科」としてではなく、理系・文系のワクを超えて科学史を「学問史」としてその特徴や意義を歴史的背景を含めて理解する。

特に日本では幕末・明治期に西洋の「科学」(scienceの訳)を受容したという経緯があり、19世紀以前の「科学」について、正しい歴史認識が不足している事が多い。例えば「科学」という翻訳自体も、「科学の学」(種々の学科)という意味でしかなく、scienceがラテン語のスキエンティア(確実な知識)から派生したという、歴史的事実を伝えていない。さらに学校教育の数学や理科では、現代の科学の価値観を過去に投影するホイッグ史観的な記述が多く、ここでも歴史的に正しく「科学」の歴史が反映されているわけではない。

<科目目的>

- (1) 19世紀以前の「科学」概念の変遷について、歴史的にその概要を理解する。
- (2) 古代ギリシア以来の学問観・学問分類の変遷を、社会的背景との関係から理解する。
- (3) なぜヨーロッパのみに現代につながる近代「科学」が成立したかを理解する。
- (4) 現代の「科学」の重要性について、歴史的に再認識する。

**到達目標**

文化としての「科学」の特徴や意義を、世界史の流れの中で理解できる様になり、現代の「科学」の問題点を正しい歴史的観点から考える力をつける。

**授業計画と内容**

毎回の授業で、オリジナルテキストの該当部分(プリント6～8p)を配布して解説します。この授業プリント14回分をクリアファイルにまとめて、一冊の「科学史」のテキストになります。(期末レポートを書く時に、この「科学史」テキストが必要となりますので大切に保管して下さい)

- 1) 科学史の流れ(総論)
- 2) 古代の科学・技術・神話
- 3) ギリシア科学の成立
- 4) ヘレニズム科学の成立
- 5) ヘレニズム科学の発展と終焉
- 6) 古代から中世へ
- 7) インド科学
- 8) アラビア科学
- 9) 12世紀ルネサンス
- 10) 中世の技術革新
- 11) 科学ルネサンス
- 12) 科学革命

- 13) 科学アカデミー
- 14) 科学の制度化

注1) 上の表題はあくまで仮題です。授業の進捗・工夫により各単元の名称や順序は変わる可能性もあります。ただし講義の内容そのものが大きく変わるわけではありません。

注2) 授業終了後に、毎回のテキスト・プリントを総合教育科目研究室(3748)に保管します。事情により授業を欠席した履修生は、こちらで授業プリントを受け取る事ができます。

#### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

#### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ・毎回の授業後に小レポートのテーマをmanabaで通知しますので、授業プリントを復習しながら小レポートを作成してmanabaに提出して下さい。(各レポートにコメントしてお返しします)
- ・授業内容や小レポートの内容について、manabaから質問できます。

#### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

#### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	30%	この「レポート」は毎回の小レポートとは異なり、最後に提出する期末レポートになります。
平常点	70%	毎回の小レポートです。(授業に出席することが前提) 期限は5~6日です。
その他	0%	

#### 成績評価の方法・基準(備考)

(平常点)  
毎回の小レポートによる。A~Eで評価、Aは5点で14回で $5 \times 14 = 70$ 点

(期末レポート・必修)  
A~Eで評価、Aで30点。平常点が60点以上でも、この期末レポートを提出しない場合は単位は不可でEとなります。期末レポートは、ほぼ小レポート3回分の量になります。

(欠席)  
欠席して小レポートを提出しない回は、平常点は0点になります。病気や公欠などのやむを得ない事情で欠席した場合は、授業プリントを読んで小レポートを提出すれば平常点は付きます。その場合は、必ず担当教官にmanaba(コレクション)から連絡して許可をとって下さい。

(総合評価)  
平常点と期末レポートの総合点で評価します。総合点が60点以上で合格です。

#### 課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

毎回の小レポートには、必ずコメントをつけてお返しします。質問にもコメントをつけてお答えします。

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

#### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末

- その他  
✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい  
✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

毎回、講義プリント (pdf) を配布します。

授業と関連して、以下の本を勧めます。(比較的価格が安いもの)

「風土」和辻哲郎、岩波文庫、1979  
「西欧文明の原像」木村尚三郎、講談社学術文庫、1988  
「科学論入門」佐々木力、岩波新書、1996  
「文化としての近代科学」渡辺正雄、講談社学術文庫、2000  
「パラダイムとは何か」野家啓一、講談社学術文庫、2008  
「科学哲学への招待」野家啓一、ちくま学芸文庫、2015  
「反哲学史」木田元、講談社学術文庫、2000  
「ポスト資本主義」広井良典、岩波新書、2015  
「人新世の資本論」斎藤幸平、集英社新書、2020

など。  
これ以外にも、良質な参考文献は講義で紹介します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

なるべく難しい数式は使わない。良い参考書も随時紹介するので、高校の歴史のような網羅的な知識の詰め込み、というスタイルはとらない。

### 参考URL

### 備考

---



**科目名： 社会言語学概論／社会言語学A****担当教員： 朝日 祥之**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：金2

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-LG1-T502

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:55:41 更新者：AD0151

更新日時：2024-01-05 06:01:00

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

本講義では、私たちが日常生活で使う言葉に潜む規則性を明らかにする社会言語学を取り上げ、社会言語学の諸問題について理解を深めてもらうことを目的とする。社会言語学における諸分野における日本・欧米の研究動向を踏まえ、ことばが、話者の属性や場面、話し相手とどのようにかかわっているのかを考察する。授業で取り上げるテーマは、若者語、男女ことば、キャンパスことば、敬語、誘いの言葉遣いや依頼表現、ら抜き言葉、「かつこいい方言」と「かわいい方言」などである。

**科目目的**

本科目の目的  
社会言語学の基礎的知識を見つけるとともに、関連テーマの研究動向、研究成果、私たちの使う言葉遣いに見られる様々な特徴を知ることができる。  
到達目標  
自分自身が使用する言語の特徴について内省できるようになる。ことばと社会との関係について考えを深めてもらうのとともに自分自身で関連する現象を発見できるようになる。  
意義  
自分の言葉遣いに詳しくなること、日本語を始めとする様々な言語と社会との関係を知ることにより、これまで以上に良好な人間関係を構築・維持できるようになる。

**到達目標**

日常生活で自分が使っている言葉づかい、周りの人が使っている言葉づかいに対する関心を高めることができる。円滑なコミュニケーションを行うための知識を得ることができる。

**授業計画と内容**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会言語学とは
- 第3回 ことばと年齢
- 第4回 ことばと階層
- 第5回 集団とことば
- 第6回 ことばと性・ジェンダー・セクシュアリティ
- 第7回 依頼・謝罪・勧誘・断りの言語行動
- 第8回 敬語・待遇表現・ポライトネス
- 第9回 言語接触：外来語
- 第10回 言語の誕生と死
- 第11回 ことばの評価
- 第12回 言語計画と国語施策・日本語施策
- 第13回 手話の社会言語学
- 第14回 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%
期末試験	60% 本科目内容に関する総合的な理解を確認する。
レポート	0%
平常点	40% 授業内容に対する質問，議論への参加など。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

講義ではレジュメを配布するため、テキストは使用しない。

参考文献としては

①真田信治・朝日祥之・簡月真・李舜炯 (編) 『新版社会言語学図集』ひつじ書房，2021年，東京

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名：文化人類学／文化人類学A

担当教員：小田 昌教

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：水4

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-CA1-T605

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:06:17 更新者：AB5942

更新日時：2024-01-05 20:18:04

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

授業は「文化人類学A」と「文化人類学B」に分かれています。

「文化人類学A」では、おもに「COVID-19のパンデミック」と「気候変動」を中心に、感染症のウイルスと気候が人類にもたらしている影響と変化について学びます。

「文化人類学B」では、おもに「グローバル経済」と「民主主義」を中心に、グローバリゼーションが人類にもたらしている大きな影響と変化を学びます。

昨年度までの講義の内容や教材の一部は、下記のサイトでみることができます

- ・文化人類学解放講座 Blog版 <http://illcommonz.exblog.jp/>
  - ・文化人類学解放講座 YouTube版 <http://anthropologix.blogspot.com/>
- このシラバスのPDF資料も参照してください。

**科目目的**

日本のバンド、サザンオールスターズは、ヒット曲「ピースとハイライト」のなかで、こう歌っています。「教科書は、現代史をやる前に時間切れ。そこが一番知りたいのに、何でそうなっちゃうの？」（作詞：桑田佳祐）。何でそうになってしまうかはともかく、現代史は、みなさんたちが生まれ、そして現在進行形で、日々生きている時代の流れや世界の仕組みとダイレクトにつながる、本当なら一番知っておかなければならないはずのリアルな歴史です。そこでこの授業では、学校の教科書がやらない現代史をやります。具体的には、1894年に世界で最初に「地球温暖化」を指摘したアレデニスの研究から、2019年の国連気候行動サミットでのグレタ・トゥーンベリのスピーチまでをとりあげ、いま人類が直面している最大のグローバル・イシューである「気候変動」の問題を、社会学、文学、心理学、哲学、気象科学、古人類学などのクロス・カリキュラムな視点から、お話します。この授業の目標は、日々、みなさんが目や耳にするニュースや言葉を、ただ聞き流すのではなく、その事件や出来事の背景と同時代的な流れからニュースを読み解き、それについてより深くより広く考え、自分の意見を持つための知性と教養、そして人類学的なリテラシーを身につけることです。キーワードは、地球温暖化委、クライメイト・クライシス、グレート・アクセラレーション、不都合な真実、ヒト新世、そして、文化と人類です。

**到達目標**

この授業の到達目標は、次の5つです。

- ①オーセンティック・ラーニング
- ②クロスカリキュラム・ラーニング
- ③アンチバイアス・ラーニング
- ④プロアクティブ・ラーニング
- ⑤クリティカル・ラーニング

それぞれの意味については、授業のなかでお話しをすることとし、ここでは①についてだけ先にお話しします。

「オーセンティック・ラーニング」とは、過去の歴史や文化ではなく、自分たちがいま現在進行形で生きている現実社会で、いま、まさに起きている具体的な問題や事象をリアルタイムに学び、それに対する対応のしかたや解決策を考えてゆく学びのことです。

小説『精霊の守り人』の作者で、文化人類学である上橋菜穂子は「文化人類学とは何か」ということについて、こう述べています。

「文化人類学というのは、我が身で経験せよ、という学問なんです。本で読んだ知識のみで構築していくのではなく、同時代の生きている人々の文化をいかに考え、いかに書くかということが大切になってくる。人類学者は、たったいま生きている人々のことを書く。」

中央大学の文学部で16年間、開講してきた「文化人類学」の授業の基本方針もまた「いま、地球世界でおきていることを知る」でした。平常時ももちろん、非常時ともなればなおさらのことそうです。そして15年間を通じて変わらない共通のテーマのひとつは「グローバリゼーション」です。グローバリゼーションは、一般に「ヒト・モノ・カネ・情報」の世界的な拡散と定義されていますが、いま、みなさんたちが経験しているのは、「ヒトとモノをメディア（媒介）として、世界中に「ウイルス」が拡散してゆく「感染性」のグローバリゼーションといえます。それだけでなく現代社会には、気候変動による「異常気象」

や、人種による「レイシズム」など、世界が抱えている多くの「グローバル・イシュー」が存在します。ただ、それは今にはじまったことではなく、今から約8万年前に、人類の祖先がアフリカから世界に移動したときから始まった現象です。「ヒト」が世界に拡散していった、この大移動を人類の最初の大きなグローバリゼーションだとすれば、二番目のグローバリゼーションは「大航海時代」ということになり、これは「モノ」の拡散でしたが、いまは「カネ」と「情報」のグローバリゼーションが進んでいます。今期の「文化人類学B」では、まず文化人類学的な視点から「人類の3つのグローバリゼーション」の話からはじまって、感染症、気候変動、レイシズム、資本主義、ITなど、様々なグローバルイシューについて、みなさんと一緒に考えてゆきたいと思っています。これが今期の授業の「到達目標」です。

## 授業計画と内容

各授業ごとのテーマは次のとおりですが、受講者の興味と関心、理解度にあわせて、授業のテーマは変更する場合があります。

- 01: ガイダンス: 「ニューノーマル」としてのオンライン授業
- 02: イントロダクション: 現代の5つのラーニング
- 03: パンデミックで学ぶ世界の国と地域
- 04: 人類学からみたヒトの都市とパンデミック
- 05: コロナウイルスで露わになったレイシズム
- 06: パンデミックの時代に人文科学を学ぶ理由
- 07: パンデミックをのりきる国の条件と慎重な楽観論
- 08: ホモ・サピエンスの生活史から考える身体のケア
- 09: 2019年「国連気候行動サミット」
- 10: 映画「不都合な真実」と「不都合な真実2」
- 11: 放送大学「環境と社会」リミックス
- 12: 映画「愚か者の時代にいる」
- 13: フットプリントの消し方
- 14: アクティヴ・ラーニング方式によるまとめ

## 授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと  
授業終了後の課題提出

- ✓ その他

## 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

manaba のrespon へのコメント

## 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

## 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	なし
期末試験	100%	オンラインで提出する課題を評価対象とします。
レポート	0%	なし
平常点	0%	なし
その他	0%	なし

## 成績評価の方法・基準(備考)

「21世紀のスキル」の習得度

## 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

## 課題や試験のフィードバック方法(その他)

## アクティヴ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

## アクティヴ・ラーニングの実施内容(その他)

## 授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- タブレット端末
- その他
- 実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

## 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

講義を担当する講師は、文化人類学を修めた後、現代美術家になり、現在はグラフィック・デザインや映像編集などの仕事をしながら、複数の大学で教育活動を行っています。この講義では、アートやデザインのスキルを活かし、講師が独自に編集した動画やグラフィック資料を教材に使って講義を行います。

## 実務経験に関連する授業内容

グラフィックデザイナーとしての実務経験を活かしたオンライン教材を使用します。

## テキスト・参考文献等

教科書は使いません。授業ごとに必要な教材や資料を準備して、プリントとmanaba で配布します。

## オフィスアワー

## その他特記事項

大学で「教養」を身につけることの意義については、下記の文章を参考にしてください。  
「ひとつの時代が終わったと言われて久しい。だが、その先にいかなる時代を展望するのか、私たちはその輪郭すら描きえていない。グローバル資本主義の浸透、憎悪の連鎖、暴力の応酬、世界は混沌として深い不安の只中にある。現代社会においては変化が常態となり、速さと新しさに絶対的な価値が与えられた。消費社会の深化と情報技術の革命は、種々の境界を無くし、人々の生活やコミュニケーションの様式を根底から変容させてきた。ライフスタイルは多様化し、一面では個人の生き方をそれぞれが選びとる時代が始まっている。同時に、新たな格差が生まれ、様々な次元での亀裂や分断が深まっている。社会や歴史に対する意識が揺らぎ、普遍的な理念に対する根本的な懐疑や、現実を変えることへの無力感がひそかに根を張りつつある。そして生きることに誰もが困難を覚える時代が到来している。しかし、日常生活のそれぞれの場で、自由と民主主義を獲得し実践することを通じて、私たち自身がそうした閉塞を乗り越え、希望の時代の幕開けを告げてゆくことは不可能ではあるまい。そのために、いま求められていること、それは、個と個の間で開かれた対話を積み重ねながら、人間らしく生きるこの条件について一人ひとりが粘り強く思考することではないか。その営みの糧となるものが、教養に外ならないと私たちは考える。歴史とは何か、よく生きるとはいかなることか、世界そして人間はどこへ向かうべきなのか。こうした根源的な問いとの格闘が、文化と知の厚みを作り出し、個人と社会を支える基盤としての教養である」 「岩波新書新赤版1000点に際して」(2006年)より抜粋

## 参考URL

<https://illcommonz.wordpress.com/>

## 備考

科目名: ジェンダー論

担当教員: 黒岩 裕市

履修年度: 2024 学期: 前期

開講曜日時限: 木5

配当年次: 1~4年次配当

科目ナンバー: LE-GN1-T701

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:06:17 更新者: AD0424

更新日時: 2024-01-08 14:44:06

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

この講義のテーマである「ジェンダー」とは、社会的に構築される性差と説明されるものであるが、その性差（「男らしさ」や「女らしさ」、男性の役割や女性の役割とみなされるもの）は規範となり、私たちの身体や振る舞い、生き方や関係性を、「望ましい」「自然な」ものと、「奇妙な」「おかしな」ものに区分する機能をもつ。この講義ではジェンダーにまつわる諸問題を今日的な視点から問いなおすことを目的とするが、対象があまりにも広いため（ジェンダー規範は「性」とは無関係に見える領域を含め、社会のすべてに浸透している）、授業の前半で「フェミニズムの歴史と現在」、後半で「クィア・スタディーズの取り組み」をテーマとする（もちろんこの2つのテーマは密接に関連するものである）。それぞれ5回かけて、ジェンダー規範の問題性を検討したうえで、それに対する抵抗や交渉の軌跡をたどり、その可能性や限界について考察したい。

なお、授業の配布物、課題等はmanabaを通して配布する／提出してもらう（教室では紙でのやり取りは基本的には行なわない）。授業に関する連絡もmanabaの「コースニュース」で行なうため、学期中はmanabaを日常的にチェックすること。

**科目目的**

ジェンダーに関して「あたりまえ」や「普通」とみなされていることの前でいったん立ち止まり、再検討するようになること。

**到達目標**

他人事としてではなく、自分のこととして（自分自身と関連づけて）ジェンダーの諸問題を考えられるようになること。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 フェミニズムの歴史と現在①——第一波フェミニズム
- 第3回 フェミニズムの歴史と現在②——第二波フェミニズム
- 第4回 フェミニズムの歴史と現在③——「ポストフェミニズム」をめぐる議論
- 第5回 フェミニズムの歴史と現在④——性差の再強化？ 「女子力」の語られ方
- 第6回 フェミニズムの歴史と現在⑤——「バックラッシュ」への抵抗
- 第7回 第2回～第6回までのまとめ、「理解する」ということの問題性について
- 第8回 クィア・スタディーズの取り組み①——その始まりとエイズ・アクティヴィズム
- 第9回 クィア・スタディーズの取り組み②——境界を攪乱する？（1） ジュディス・バトラーの議論
- 第10回 クィア・スタディーズの取り組み③——境界を攪乱する？（2） イヴ・コゾフスキー・セジウィックの議論
- 第11回 クィア・スタディーズの取り組み④——「クィア」の主流化、「LGBT」の可視化（1） ポップカルチャーにおける「クィア」
- 第12回 クィア・スタディーズの取り組み⑤——「クィア」の主流化、「LGBT」の可視化（2） 理論的考察
- 第13回 第8回～第12回までのまとめ、地方自治体の取り組みをめぐって
- 第14回 授業全体の総括と振り返り、「普通」なるものの問題性について

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

授業のレジュメや資料をよく読み、課題に取り組むこと。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	80% 学期末レポート
平常点	20% 授業中に行なう簡単な課題
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

「平常点」とは「課題」を指す。いわゆる「出席点」ではない。ただし、授業中の課題を3分の1以上提出していない受講生は、学期末のレポートの提出を認めない。  
「学期末レポート」はmanabaを通して提出してもらう。  
この授業は対面で行なうが、授業中の課題もmanabaで解答してもらう。スマホで構わないので、受講生はmanabaに接続できる環境を整えておくこと。なお、授業の進度に合わせて、解答する時間を設定するため、課題の締切の時刻は毎回の授業で異なる（とはいえ、授業中に指示し、解答する時間を取るため、授業に参加していれば、混乱することはないだろう）。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

教科書（テキスト）は用いない。レジュメ・資料はPDFのファイルでmanabaを通じて配信する。  
原則として、教室で紙の形態でレジュメや資料を配布することはない。受講生は各自でレジュメをプリントアウトして教室に持参するか、PCやタブレットにダウンロードして教室で参照できるようにすること。

参考文献は授業中に紹介する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

講義で取り上げる資料には性的表現を用いたものもある。もともと、「性的」とは何かということを問いなおすようなものもあるのだが、履修に際してはこの点に十分に注意すること。  
質問は、manabaの「個別指導」で受け付ける。

### 参考URL





科目名： 国際理解教育論

担当教員： 見世 千賀子

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 木2

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-ED1-T702

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:06:17 更新者： AC9676

更新日時： 2024-02-22 23:52:59

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

グローバル化の進行に伴い、教育の分野においては、改めて国際理解教育のあり方が問われている。本講義では、主に、外国人児童生徒教育や海外・帰国児童生徒教育の現状と課題を通して、グローバル化時代の学校教育のあり方について、検討していく。また、日本における国際理解教育への取り組みに焦点をあて、国際理解教育が求められてきた背景、それらに関する理念・政策の変遷、学校および地域社会における実践の状況をみる。比較の視点から、オーストラリア等、諸外国の多文化教育についても検討する。さらに、人権、開発、文化、エスニシティ、シティズンシップなど、国際理解教育の理念と実践に深く関わる概念を検討し、それらの理解を踏まえて、グローバル化時代に求められる国際理解教育のあり方を考察していく。

**科目目的**

「グローバル人材」の育成、「国際社会・グローバル社会に生きる児童生徒の育成」が現代的な教育課題の一つとして言われているが、そもそも国際社会・グローバル社会に生きるとはどのようなことか、それに関する教育はどうあったらよいのか。多様な人々との共生に向けて異文化理解をすることが求められているが、「理解」をすることはどこまで可能なのだろうか。理解の先に求める意識変容や態度化、行動化はどうしたら実現できるだろうか。こうしたことを科目を通して考える。

**到達目標**

- 本講義では以下のことを到達目標とする。
- ・自己内の「外国」「異文化」像を認識する。
  - ・国際理解教育に関する多様な領域や目標がわかる。
  - ・いくつかの国際理解教育実践の事例から具体的な学習方法を学ぶ。
  - ・授業終了時には、国際理解教育の概要を理解し、実践事例や教材から学んだ点を生かした教材の素案をまとめることを目指す。

**授業計画と内容**

- 1 オリエンテーション：私の異文化体験
- 2 国際理解教育－自己理解・他者理解
- 3 日本社会の多文化化の現状と教育課題
- 4 日本の学校における外国人児童生徒の教育課題
- 5 外国人児童生徒教育と国際理解教育
- 6 海外で学ぶ子どもの教育事情
- 7 日本人学校における国際理解教育の現状と課題
- 8 現地の学校で学ぶ子どもの異文化体験・アイデンティティ
- 9 帰国児童生徒の教育と課題
- 10 グローバル人材の育成とは
- 11 オーストラリアの多文化教育
- 12 多文化社会オーストラリアの市民性教育
- 13 国際理解教育とは何か－歴史の変遷
- 14 SDGs と教育実践 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

## 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	40%	学期末に到達目標に照らし合わせ、授業内容をふまえて小論を書くことができる。
平常点	60%	授業後のコメントペーパーに自らの考えを授業をふまえて記述できる。
その他	0%	

## 成績評価の方法・基準(備考)

## 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

## 課題や試験のフィードバック方法(その他)

## アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート  
グループワーク
  - ✓ プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

## アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

## 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末  
その他  
実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

## 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

## 実務経験に関連する授業内容

## テキスト・参考文献等

参考文献：日本国際理解教育学会編著『国際理解教育ハンドブック』明石書店、2015年。

## オフィスアワー

## その他特記事項

教育と国際理解の問題に強い関心があることを前提として授業を展開する。参加型の授業を展開することもあるので、誰とでもコミュニケーションをとることができることを基本的なスキルとして求める。国際活動、海外旅行体験の有無は問わない。

## 参考URL

## 備考

科目名： ボランティア論

担当教員： 山科 満

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 月1

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-OG1-T704

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:06:18 更新者： AA1029

更新日時： 2023-12-25 15:27:00

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

現代社会においては、さまざまなボランティア活動が展開されており、ボランティアの貢献無しには成り立たない社会活動も少なくありません。この科目は、社会におけるボランティアの役割などについて総論的な講義を行うと共に、さまざまな現場でボランティア活動に従事しているボランティアリーダーやボランティアと協働しながら社会活動を展開しているNPO関係者などを講師に招き、各現場で求められるボランティア活動の内容について具体的に紹介し、学生がボランティア活動に関与する契機となるような授業を行います。

授業で扱う領域は「地域社会」「子どもの育ち・教育」「障害福祉」「災害」など、多岐にわたっています。さまざまな社会問題は、一見全く別な事柄のようであっても、どこかで通底しているものです。足元の事象を見つめながら広く世界を見渡す姿勢を、この授業を通して身につけていただくことを願っています。

学期の途中で半日間のボランティア体験を行い、レポートを提出していただきます。詳細は授業の初回にお話しします。

**科目目的**

1. 現代社会におけるボランティアの意義と役割について、学問的見地および実践的立場からの両面から理解する。
2. ボランティアの貢献を必要とする領域における社会的な課題と、その課題の中でボランティアに期待される役割とその限界について、授業とボランティア活動を通して、具体的に学ぶ。

**到達目標**

1. ボランティアが必要とされる領域の背景にある事情（社会問題）について知り、思考することをサボらない人になる。
2. 必要ならためらわず行動に移せるポテンシャルを身につける。

**授業計画と内容**

原則として対面授業を行います。

- 第1回 オリエンテーション、ボランティアとは何か①【中大VC、山科】
- 第2回 まちづくりと環境  
【外部講師①】 NPO法人フュージョン長池 理事長 田所喬氏
- 第3回 児童養護施設で暮らす子どもへの支援  
【外部講師②】 児童養護施設杉並学園 心理職 江野肇氏
- 第4回 障がい者福祉  
【外部講師③】 社会福祉法人夢ふうせん 施設長 浅野大輔氏
- 第5回 生ごみを活用したコミュニティーガーデン  
【外部講師④】 せせらぎ農園 代表 佐藤美千代氏
- 第6回 国内での外国籍者支援  
【外部講師⑤】 NPO法人多文化共生センター東京 代表理事 栢木典子氏
- 第7回 外部活動日①（教室での授業は行いません）
- 第8回 国際ボランティア  
【外部講師⑥】 NPO法人NICE 代表 開澤真一郎氏
- 第9回 子どもの支援  
【外部講師⑦】 一般社団法人プレーワーカーズ 事務局長・理事 神林俊一氏
- 第10回 外部活動日②
- 第11回 市民社会におけるボランティア（理論編） 外部講師（未定）
- 第12回 市民社会におけるボランティア（実践編） 神戸の経験から  
【外部講師⑧】 被災地NGO協働センター 顧問 村井雅清氏
- 第13回 東日本大震災の被災地に通い続けて 山科満
- 第14回 まとめ・振り返り

外部講師の都合により、順番および内容の変更がありえます。詳細は授業中に適宜アナウンスします。

VC：本学ボランティアセンター

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業後、簡単な小テストを受け、自由記述欄で「感想・質問」を記入し、当日23時55分までに提出して下さい。講師から返答があった場合など、必要に応じてレスポンスをスレッドに掲示します。山科がコメント機能を使って個別に返信する場合があります。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	30%	何問かの記述式の小テストを行います。授業で話されたことが理解できていれば満点とします。
レポート	30%	実際に行ったボランティア活動について、ボランティア先の社会的な状況、自身の体験、実習を通して自分の頭で考えたことが的確な日本語で記述されていれば満点とします。 中大のVC所属の団体や、学友会公認のボランティアサークルの学生は、自身のこれまでの活動記録などでレポートに代えることができます。
平常点	40%	出席と毎回の小テスト・感想の記入から、授業へのコミットメントを評価します。なお、出席における不正行為が発覚した場合は、成績評価の平常点は0点とします。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

出席における不正行為が発覚した場合は、成績評価の平常点は0点とします。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

学期中に、何らかのボランティア活動を自ら申し込んで行ってください。manabaの個人指導コレクションに、自身のボランティア活動の記録を書き込んでください。学期末に、その体験と考察をレポートにまとめて提出していただきます。

以下の人は、これまでに行ってきた活動報告をもって、レポートに代えることができます。

- ①ボランティアセンター所属の被災地支援学生団体のメンバーで実際に現地での支援活動に参加したことのある人
  - ②学友会公認のボランティアサークルで1年以上の活動経験のある人
  - ③その他、大学入学後に継続的にボランティア活動に従事している人
- 詳細は、授業中に指示します。

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

資料の配付などは全てmanabaのコンテンツ機能を使って行います。感想や質問など、manabaを通して寄せられたものには、スレッドや個別の返信機能を使って積極的にコメントをつけていきます。

### 実務経験のある教員による授業

✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

山科は、精神科医としてさまざまな現場で30年以上の臨床経験を有し、コロナ禍で現地に行けなくなった時期を除き、東日本大震災の被災地にボランティアとして年間20日前後通っていました。

### 実務経験に関連する授業内容

現場で聞いた被災者の「生の声」を、プライバシーに配慮しながら、お伝えします。

### テキスト・参考文献等

参考文献：村井雅清著 『災害ボランティアの心構え』 S Bクリエイティブ

### オフィスアワー

### その他特記事項

特別な事情無く初回授業を欠席した者は以後の履修を認めません。ただし、学生の熱意によってはその限りではないので、2枚目の授業の前までに授業担当教員とよく相談してください。

山科への連絡はメールで行ってください。  
m-yama@tamacc.chuo-u.ac.jp

### 参考URL

ボランティアセンター  
<http://www.chuo-u.ac.jp/usr/volunteer/overview/>

大学の社会貢献：学生ボランティアの意義（山科）  
<http://www.yomiuri.co.jp/adv/chuo/opinion/20140317.html>

### 備考

---

**科目名：健康教育学****担当教員：渡邊 正樹**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：火2

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-HS1-T705

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:06:18

更新者：gakubadmin

更新日時：2024-01-31 18:03:39

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

現代社会の主要な健康問題や健康づくりの考え方を取り上げ、健康問題を解決するための手法について学ぶ。なお対面授業の場合は健康問題に関連した映像（TVドキュメンタリー、映画など）を適宜用いる。

**科目目的**

健康に関する現代的課題を学ぶとともに、学校教育で健康教育を行う上で必要な知識を身につけることを目的とする。

**到達目標**

各時間に取り上げる健康に関する概念や課題について理解し、教員の立場として説明できるようにする。また自分自身の健康課題として認識し、課題解決を行うことができる能力を身につける。

**授業計画と内容**

1. 健康とQOL
2. ヘルスプロモーションと健康づくり
3. 健康格差と対策
4. がんとその対策
5. 感染症とその予防
6. 性行動と性感染症
7. 精神疾患の実態と対策
8. 薬物乱用防止
9. 生殖医療
10. ゲノム医療
11. 臓器移植
12. 食の安全
13. 健康情報とその対応
14. 総括・まとめ（ヘルスリテラシーを中心に）

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%
期末試験	70% 期末試験については試験の点数の6割以上を合格基準とする。
レポート	30% 各回レポートの平均値を求める。提出のなかった回は0点とする。
平常点	0%
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

ただし欠席が3分の1を超えた場合は失格とする。

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

✓ その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

基本的に授業で解説するが、必要に応じて資料を配布する。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他

✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
タブレット端末

✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業中にmanabaを活用することがあるが、その都度説明する。

### 実務経験のある教員による授業

はい  
✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

渡邊正樹『健康教育ナビゲーター三訂版』(大修館書店, 2021年)をテキストとして毎回使用する『』

### オフィスアワー

### その他特記事項

リモート授業を用いる必要が生じた場合は、オンデマンドではなくリアルタイム配信で行う予定である。リモート授業となった場合は最終試験もレポート提出に代えることがある。

### 参考URL

### 備考

科目名：人文地理学概説／人文地理学(1)

担当教員：亀井 啓一郎

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：木2

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-GG1-T801

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:06:18 更新者：AC7670

更新日時：2024-01-09 22:49:37

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

地理学は地域の人文・社会・自然現象を総合的に把握してその性格や特色を明らかにし、地域の成り立ちや空間分布、地域構造を考察することを目的とした学問である。このうち人文地理学においては、人間の諸活動の地域的分布や相互関係、生活様式などを考察していくことを目的としている。

この科目では、まず世界の広がりという視点から、われわれ人類がどのように世界を見てきたのかについて講義を行う。続いて現代日本の姿について、軽井沢や小京都、湘南などに視点をあて講義を行う。最後に日本の首都である江戸・東京について講義を行う。高等学校で「地理」を履修しなかった学生にも理解できるように、人文地理学の基礎的な内容にもふれる予定である。地図帳を持参すること。

なお、一部の授業内容が2023年度までの後期科目「地図と地域／人文地理学(2)」で扱ったものと重複している。履修する際にはその点を留意して欲しい。

**科目目的**

この科目は、カリキュラム上の総合教育科目に位置付けられることから、幅広い教養を身に付けることを目的とする。

**到達目標**

この科目では、以下を到達目標とする。

- (1) 人文地理学的な見方・考え方を学ぶとともに、一般常識としての「地理」の知識や教養を身に付けることができるようになること
- (2) 地図を正しく読むことができるようになること
- (3) 地域のことを正しく理解できるようになること

**授業計画と内容**

- 第1回 授業ガイダンス、授業方針の説明
- 第2回 世界の広がり (1) 世界地図の発達と歴史
- 第3回 世界の広がり (2) 世界地図に描かれた日本
- 第4回 世界の広がり (3) 日本地図の発達と歴史
- 第5回 日本の諸地域の姿 (1) 広がる軽井沢
- 第6回 日本の諸地域の姿 (2) 小京都の分布
- 第7回 日本の諸地域の姿 (3) 小江戸と城下町
- 第8回 日本の諸地域の姿 (4) 湘南の範囲
- 第9回 江戸・東京の変遷 (1) 江戸から東京へ
- 第10回 江戸・東京の変遷 (2) 首都・東京
- 第11回 江戸・東京の変遷 (3) 江戸の地図
- 第12回 江戸・東京の変遷 (4) 江戸の町とは
- 第13回 江戸・東京の変遷 (5) 江戸の都市構造
- 第14回 授業のまとめと補足説明

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**



### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70%
レポート	0%
平常点	30%
その他	0%

持込不可。授業内容を理解した上で、地理学の見方・考え方を説明できるかどうかを評価する。

授業への参加（リアクションペーパー、受講態度）から評価する。

### 成績評価の方法・基準(備考)

授業に出席することが単位取得の最低条件である。  
出席日数が全体の2/3に満たない場合にはE判定とする。  
なお、オンライン授業となった場合には、期末レポート（60%）、平常点40%（manabaを用いて実施する質問と感想）から評価する。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

対面授業の際はresponを使用する。

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

プリントを配布する。  
地図帳を持参すること。二宮書店や帝国書院の地図帳が望ましい。

### オフィスアワー

### その他特記事項

当然のことながら、授業中の私語・私事は禁止である。  
授業の進行の妨げとなる行為を行う者の履修はお断りする。  
なお、2020年度入学生までは人文地理学（1）、2021年度以降の入学生は人文地理学概説となっている。

～2021年度以降入学生の教職課程履修者（履修予定者含む）へ～  
「中学（社会）」・「高校（地歴）」の免許を修得するためには、当科目ではなく、  
教職課程に開講されている「人文地理学（教職）」を履修する必要があるので注意すること。  
詳細は履修要項を確認すること。

参考URL

備考

---

科目名： 地図と地域／人文地理学(2)

担当教員： 亀井 啓一郎

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 木2

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-GG1-T802

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:06:19 更新者： AC7670

更新日時： 2024-01-09 22:58:43

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

地図は地表面上の諸事象を記号として表現したものである。地図には地域のさまざまな情報が書き込まれており、その情報を読み解くことで地域のさまざまな姿を理解することができる。地理学の研究において、地図を使用することは必要不可欠なことであり、地図を使用しない地理学はないとも言える。他分野においても地図を使用することは有益なことであろう。この科目の前半部分では地図に関する講義を行う。まず地図の概念について講義をし、続いてさまざまな地図に関して、地図の様式や形態、表現方法に関する講義を行う。続いて、国土地理院の地形図について地図記号や図式について講義する。後半部分ではまず日本の諸地域に関する講義を行う。最後に現在と昔の日本の地方区分の変遷に関する講義を行う。地図帳を持参すること。

**科目目的**

この科目は、カリキュラム上の総合教育科目に位置付けられることから、幅広い教養を身に付けることを目的とする。

**到達目標**

この科目では、以下を到達目標とする。

- (1) 地理学における地図の概念を理解できるようになること
- (2) 地図を正しく読むことができるようになること
- (3) 地域のことを正しく理解できるようになること

**授業計画と内容**

- 第1回 授業ガイダンス、授業方針の説明
- 第2回 地図の概念 (1) 地図とは何か
- 第3回 地図の概念 (2) 地図の分類と種類
- 第4回 さまざまな地図 (1) 地図と空中写真
- 第5回 さまざまな地図 (2) 鳥瞰図など
- 第6回 読図の方法 (1) 地図記号の変遷
- 第7回 読図の方法 (2) 地形図の読図
- 第8回 日本の諸地域 (1) 日本列島の位置
- 第9回 日本の諸地域 (2) 都道府県のイメージ
- 第10回 日本の地方区分 (1) 現在の地方区分
- 第11回 日本の地方区分 (2) 昔の地方区分
- 第12回 日本の地方区分 (3) 日本の東西南北
- 第13回 日本の地方区分 (4) 道州制
- 第14回 授業のまとめと補足説明

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)**

中間試験 0%

期末試験	70%	持込不可。授業内容を理解した上で、地理学の見方・考え方を説明できるかどうかを評価する。
レポート	0%	
平常点	30%	授業への参加（リアクションペーパー、受講態度）から評価する。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

授業に出席をすることが単位取得の最低条件である。  
 出席日数が全体の2/3に満たない場合にはE判定とする。  
 なお、オンライン授業となった場合には、期末レポート（60%）、平常点40%（manabaを用いて実施する質問と感想）から評価する。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

対面授業の際はresponを使用する。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

プリントを配布する。  
 地図帳を持参すること。二宮書店や帝国書院の地図帳が望ましい。

### オフィスアワー

### その他特記事項

当然のことながら、授業中の私語・私事は禁止である。  
 授業の進行の妨げとなる行為を行う者の履修はお断りする。  
 なお、2020年度入学生までは人文地理学（2）、2021年度以降の入学生は地図と地域となっている。

### 参考URL

### 備考

科目名： 日本地誌学

担当教員： 坪本 裕之

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 月1

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-GG1-T803

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:06:19 更新者： AC3603

更新日時： 2024-01-04 13:03:11

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

少子高齢化の中、持続的な社会経済の構築にむけて生活空間の再興が求められています。しかし、ミクロな地理的空間である生活環境も、よりマクロな大都市スケール、国土スケール、さらにはグローバルなスケールの空間の動きと密接な関係にあります。この講義では、身近な生活空間の課題を考える上で関係の深い上位の空間である、大都市東京の形成・変容過程について、自然環境をベースとして、雇用の場としての産業の立地、そして居住の場の形成の関係性から検討していきます。主として20世紀以降の大都市圏が形成され、少子高齢化や経済のグローバル化を踏まえた近年の動向も併せて解説し、都市拡大・再編過程と昨今の地域問題との関連性についても検討します。

**科目目的**

20世紀以降、地理的に拡大した大都市東京の発展過程について、地理学の基礎的な概念を基盤として解説します。なお、この講義で扱う期間は主に20世紀以降とし、東京の範囲は日常生活行動圏である東京大都市圏とします。2000年以降の東京の変化についても触れ、近年多発する大規模災害とコロナ禍における社会経済的影響を考慮し、今後の都市や生活空間のありようを展望します。

**到達目標**

到達目標は、以下の3点とします。

- (1) 地理学の基礎概念や大都市の地理的拡大・変容プロセスを理解し、それらを踏まえて地域のローカルな現状、問題を説明できること
- (2) 自然条件や人々の営みを理解し、考慮しながら説明できること
- (3) 地理学的な図表を読み込み理解出来ること、を到達目標とする。

**授業計画と内容**

講義スケジュール 各回の概要は、以下の通りである。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 大都市の都市地理学的見方
- 第3週 東京の自然環境：地図の読み込み
- 第4週 東京の自然環境：地形の成り立ち
- 第5週 東京の自然環境と人々の暮らし
- 第6週 東京の拡大前夜
- 第7週 東京の拡大と「郊外電車」の発達
- 第8週 東京の工業都市化：工業立地の理論的考察
- 第9週 東京の工業都市化：臨海工業地帯の成立
- 第10週 武蔵野台地における都市化の過程
- 第11週 ホワイトカラーの就労・居住の場としての東京
- 第12週 多摩丘陵における都市化の過程と高齢化プロセス
- 第13週 「都市再生」下における都心回帰
- 第14週 総括：現状の地域問題

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%	
期末試験	70%	最終課題としてレポートを課します。内容は「その他特記事項」を参照してください。評価基準は、授業の内容を踏まえて対象地域を各自で決定し、地形図をもとに地域の様子を推察した上で、現地の観察を行い、地域の現状や問題を説明できている、とします。
レポート	30%	最終課題レポートに向けた準備を兼ねて、作業レポート課題を課します。その提出状況を授業の出席点として上限30%の範囲内で加算します。
平常点	0%	
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

最終レポートの内容・方法については、状況次第で変更する可能性もありますので、授業での指示に従ってください。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

この授業は、基本的に対面の授業を行います。ただし、授業中や課題で「地理院地図」をはじめとするweb地形図や配布する資料(特に、地図)の読み込みを行いますので、タブレット端末やノート型パソコンなど、大きな画面をもつハードウェアの利用を勧めます(スマートホンの画面ではやや厳しいです)。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト：特に指定しません。基本的に、配布するレジュメ等に従って授業を進めます。他必要があれば、講義中に指示します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

最終課題レポートは、授業の目的に従って大学周辺や居住する地域の現状や、起こっている問題に関する内容を予定しています。日々生活をしている中での「気づき」や新聞の地方面の記事などに日頃から留意しておく方が良いと思います。

### 参考URL

### 備考



**科目名： 世界地誌学**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：木2

**担当教員： 谷川 尚哉**

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-GG1-T804

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:06:20 更新者：AD0425

更新日時：2024-01-06 06:23:33

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

地誌学とは何か。地理学とはどう違うのか。

私たちが生活している「世界」を、「地域」という視点からとらえると、「世界」を構成する各パーツとしての諸地域の理解が重要となってくる。地域を、どのように理解し認識するか。まずは、人類の「空間認識の拡大」の過程を振り返り、その原動力となったイベリア半島に着目し、地域認識を深めたい。

**科目目的**

世界地誌を学ぶにあたり、イベリア半島を舞台に、歴史を振り返りながら、空間認識の拡大を理解する。

**到達目標**

地理的空間認識の拡大は、人類の歴史そのものとも言える。また、地域は歴史的に形成される。正しい「地域認識」が到達目標である。

**授業計画と内容**

- ①地誌とは何か、地理とは何か①。 geoとgraphy (その1)。
- ②地誌とは何か、地理とは何か②。 geoとgraphy (その2)。
- ③地誌とは何か、地理とは何か③。 Terra IncognitaをTerra Cognitaに。
- ④地誌とは何か、地理とは何か④。 『世界国尽』所変われば品変わる。
- ⑤世界地誌とは何か①。 空間認識の拡大。そして、「地理は歴史で、歴史は地理だ」。
- ⑥世界地誌とは何か②。 地理的空間の拡大＝大航海時代前史。アルハンブラ宮殿とレコンキスタ。
- ⑦世界地誌とは何か③。 地理的空間の拡大＝大航海時代 (その1)。コロンブスと新大陸のその後。そして、パクス・エスパニョーラ (a)。
- ⑧世界地誌とは何か④。 地理的空間の拡大＝大航海時代 (その1)。コロンブスと新大陸のその後。そして、パクス・エスパニョーラ (b)。
- ⑨世界地誌とは何か⑤。 地理的空間の拡大＝大航海時代 (その2)。バスコ=ダ=ガマと東方航路 (a)。
- ⑩世界地誌とは何か⑥。 地理的空間の拡大＝大航海時代 (その2)。バスコ=ダ=ガマと東方航路 (b)。
- ⑪世界地誌とは何か⑦。 地理的空間の拡大＝大航海時代 (その3)。マゼランの世界一周？。Océano pacíficoとは何？ (a)。
- ⑫世界地誌とは何か⑧。 地理的空間の拡大＝大航海時代 (その3)。マゼランの世界一周？。Océano pacíficoとは何？ (b)。
- ⑬世界地誌とは何か⑨。 地理的空間の拡大＝大航海時代 (その4)。キャプテン・クックの太平洋探検。 (a)。
- ⑭世界地誌とは何か⑩。 地理的空間の拡大＝大航海時代 (その4)。キャプテン・クックの太平洋探検。 (b)。

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

授業で学んだ事を、確実に復習すること。また、常日頃から、世界の動きに注意を払う事。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**



中間試験	0%
期末試験	100%
レポート	0%
平常点	0%
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

出席は、必要十分条件である。授業の3分の1以上を欠席した場合は、試験を受けられない。

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

ビデオ映像を教科書代わりに使用する。必要に応じてプリントを配付する。高校程度の地図帳があると良い。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名： 自然災害／自然地理学(2)

担当教員： 田村 糸子

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 木1

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-GG1-T805

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:06:20 更新者： AD0029

更新日時： 2024-01-07 12:07:06

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

近年、世界各地で、これまでにない激しい自然現象により、災害の発生頻度が増加している。地震・津波、火山噴火、風水害・洪水、異常気象、斜面災害などの自然災害に対する不安を抱いている人も多い。不安の原因は、災害に関する知識や情報、経験の不足が考えられる。

本講義では、自然災害に関する知識を獲得し理解を深めるため、地球の基礎知識と地球上で起きている自然現象（地震、火山、大気循環等）のメカニズムについて学ぶ。特に火山災害、地震災害、気象災害を中心として、過去の災害事例を振り返り、災害となった原因や問題点、教訓を学ぶ。

地球の自然システムの中で捉えれば、日本はプレートの沈み込みの場であり、アジアモンスーンの場にある。最終的には変動の激しい日本の自然環境に関わる統一的理解を進める。

**科目目的**

自然災害は急激に変化する自然現象が人間社会に大きな被害・影響を与えることである。従って、災害には誘因と素因がある。

誘因とは、地震現象や火山噴火、豪雨等、短時間に働いて災害を引き起こす激しい自然の力（外力）である。この外力のメカニズムを理解し、基礎的な知識を習得することが本科目の目的の一つである。また、素因とは、誘因を受ける生活環境、自然環境である。自然環境には地形や地質・地盤（土地条件）などがある。地形や地質・地盤について、自然地理学的な見方・考え方を習得することも本科目の目的である。

災害に関する知識・情報を獲得し、災害に遭遇した時に各自が最適な判断・行動ができることを最終的な目的とする。

**到達目標**

講義を手がかりとして、各人が地球の自然現象や、地形や地質等、身の回りの地理的環境に関心を持ち、人間活動に深く関わっていることを理解することを目指す。そして、獲得した自然のシステムや自然災害に関わる知識を、将来において防災意識の向上等、災害の軽減に繋げられるようになることを目標とする。

**授業計画と内容**

- [第1回]：イントロダクションおよびガイダンス  
自然地理学と自然災害 講義の概要と履修上の注意  
惑星地球の姿1：天体としての地球 宇宙・太陽系
- [第2回]：惑星地球の姿2：太陽系・地球の誕生 地球の内部構造
- [第3回]：惑星地球の姿3：海陸の分布とその形成史（陸の誕生・海の誕生）
- [第4回]：地球表層の動きを支配するプレートテクトニクス：プレートの概要と大地形の形成
- [第5回]：プレートテクトニクスと地殻変動：プレート境界 日本列島のプレートとその動き
- [第6回]：火山災害1：火山と活火山 火山分布 マグマの誕生 噴火のメカニズム
- [第7回]：火山災害2：噴火の多様性と火山噴出物 日本列島の火山とその活動 火山災害
- [第8回]：地震災害1：地震とそのメカニズム 地震の基礎知識
- [第9回]：地震災害2：日本列島の地震 2つのタイプ 活断層とは何か
- [第10回]：地震災害3：東京の地震と震災 過去の地震災害の検証と課題
- [第11回]：気象災害1：地球の大気 大気の構造 大気圧 大気組成 気象要素
- [第12回]：気象災害2：太陽放射と地球放射 地球の熱収支と大気の大循環
- [第13回]：気象災害3：様々な気象災害の検証と対策 地球温暖化とその影響
- [第14回]：総括・まとめ 東京の地形と自然災害 自然災害への備えと行動

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

学びは内容を暗記するのではなく、理解することが重要。新しい知識・経験は自分のこれまでの経験や基礎知識と照らし合わせて、初めて理解することができる。そのためには一般常識や教養を充実させることが必要。自分から様々なことに興味をも

ち、土台を増やすよう心がけてほしい。

また自然地理学は地球の自然を対象とするものである。講義において、地球（自然）をより深く理解するのに参考となる具体的な情報（博物館やジオパークなどの関連施設、最新の出版物、関連するテレビ番組）を出来るだけ紹介するので、積極的に活用して下さい。

#### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

#### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80% 講義で扱った自然災害/自然地理学についての重要事項の理解度で評価します。
レポート	20% 自然災害に関連した課題を出題し、それに対する意識や観点、見解などを基準として評価します。
平常点	0%
その他	0%

#### 成績評価の方法・基準(備考)

履修人数等の状況により、課題レポートを実施しない場合があります。

#### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

- ✓ その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

特定のフィードバックは行っていないが、授業時間内に理解が進むよう工夫している。

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）  
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他

- ✓ 実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

#### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
タブレット端末  
その他

- ✓ 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

#### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。毎回講義時に資料を配付する。関連文献・参考文献は下記の他にも授業中に別途指示する。世界の諸地域に関するテレビ番組等は大きい授業の参考となる。

参考文献

内田悦生・高木秀雄編著『地球・環境・資源 地球と人類の共生をめざして』共立出版  
山崎晴雄著『富士山はどうしてそこにあるのか』NHK出版新書

## オフィスアワー

## その他特記事項

毎回、資料を載せたレジュメを配布します。しかし、これには図しか載せていないので、講義を聴かないと内容は理解できません。毎回出席して講義を聞きノートをしっかりとってください。  
受講時には（持っていれば）高校等で使った地図帳を持参すると授業の理解が深まります。

## 参考URL

## 備考

---

**科目名： 自然地理学／自然地理学(1)****担当教員： 亀井 啓一郎**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：木1

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-GG1-T806

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:06:20 更新者：AC7670

更新日時：2024-01-05 22:11:39

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

地理学は地域の人文・社会・自然現象を総合的に把握してその性格や特色を明らかにし、地域の成り立ちや空間分布、地域構造を考察することを目的とした学問である。このうち自然地理学においては地球上の自然現象そのものにとどまらず、人間生活との関わりの中から自然環境について考察していくことを目的としている。この科目では、まず地球の大きさと表し方について講義する。続いて、世界の大陸や海洋、気候などについて講義を行う。さらに日本の地形や河川、気候、季節感などの講義を行う。高等学校で「地理」を履修しなかった学生にも理解できるように、自然地理学の基礎的な内容にもふれる予定である。

**科目目的**

この科目は、カリキュラム上の総合教育科目に位置付けられることから、幅広い教養を身に付けることを目的とする。

**到達目標**

この科目では、以下を到達目標とする。

- (1) 自然地理学的な見方・考え方を学ぶとともに、一般常識としての「地理」の知識や教養を身に付けることができるようになること
- (2) 地図を正しく読むことができるようになること
- (3) 地域のことを正しく理解できるようになること

**授業計画と内容**

- 第1回 授業ガイダンス、授業方針の説明
- 第2回 地球の形 (1) 地球の大きさとその形 (緯度・経度と時差)
- 第3回 地球の形 (2) 地球の表し方 (図法・投影法)
- 第4回 世界の自然環境 (1) 地球の表面
- 第5回 世界の自然環境 (2) 海水の流れ
- 第6回 世界の自然環境 (3) 世界の気候 (熱帯)
- 第7回 世界の自然環境 (4) 世界の気候 (乾燥帯と温帯)
- 第8回 日本の自然環境 (1) 日本の地形
- 第9回 日本の自然環境 (2) 日本の河川
- 第10回 日本の自然環境 (3) 水循環と水利用
- 第11回 日本の自然環境 (4) 日本の気候と気候区分
- 第12回 日本の自然環境 (5) 日本人の季節感
- 第13回 日本の自然環境 (6) 自然保護と環境保全
- 第14回 授業のまとめと補足説明

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%
期末試験	70% 持込不可。授業内容を理解した上で、地理学の見方・考え方を説明できるかどうかを評価する。
レポート	0%
平常点	30% 授業への参加（リアクションペーパー、受講態度）から評価する。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

授業に出席をすることが単位取得の最低条件である。  
出席日数が全体の2/3に満たない場合にはE判定とする。  
なお、オンライン授業となった場合には、期末レポート（60%）、平常点40%（manabaを用いて実施する質問と感想）から評価する。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

対面授業の際はresponを使用する。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

プリントを配布する。  
地図帳を持参すること。二宮書店や帝国書院の地図帳が望ましい。

### オフィスアワー

### その他特記事項

当然のことながら、授業中の私語・私事は禁止である。  
授業の進行の妨げとなる行為を行う者の履修はお断りする。  
なお、2020年度入学生までは自然地理学（1）、2021年度以降の入学生は自然地理学となっている。

～2021年度以降入学生の教職課程履修者（履修予定者含む）へ～  
「中学（社会）」・「高校（地歴）」の免許を修得するためには、当科目ではなく、  
教職課程に開講されている「自然地理学（教職）」を履修する必要があるので注意すること。  
詳細は履修要項を確認すること。

### 参考URL



科目名：アーカイブズ概論

担当教員：荒船 俊太郎

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：水4

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-PL1-T807

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:06:21 更新者：AD0084

更新日時：2023-12-31 21:26:16

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

アーカイブズをめぐる議論と研究は多岐にわたっており、短期間で論じ尽くすことはできません。そこで本講義では、特に重要な、①アーカイブズの沿革（歴史）、②アーカイブズを管理保存する公文書館とその業務、③文書館の担い手である専門職員（＝アーキビスト）、④大学アーカイブズ、⑤その他（アーカイブズをめぐる近年の動向）にしばって、映像資料や新聞資料を交えて講義します。それにより、アーカイブズの果たす役割を学び、本学問の今後の可能性について検討します。

**科目目的**

アーカイブズ (archives) という言葉をご存知でしょうか。みなさんには、Instagramやyoutubeの機能としておなじみかもしれません。ニュースやインターネット上で散見されるようになったこの言葉には、記録・記録保管所・古文書・デジタルデータといった多様な意味が含まれています。より専門的には、アーカイブズとは、将来にわたって保存すべき大切な文書や記録類を指し、それらを管理保存する公文書館等の施設、さらに文書館の機能や文書管理システム全体を指す言葉としても用いられており、これらを多角的に研究する学問のことをアーカイブズ学（記録史料学）といいます。本学問領域は、近年（とりわけこの30年間に）その重要性が喚起され、急速に議論が深められてきました。

そこで本講義では、アーカイブズにかかわる諸問題を紹介・検討し、当該領域に関する基礎的な知識の修得を目指します。これにより、公文書館の制度や文書資料の管理体制、そこで働く専門職員（＝アーキビスト）に対する理解を深め、公文書を軸とする記録管理の徹底が民主主義社会の成熟と発展に寄与するとの認識を深めていただくことを目的とします。

**到達目標**

- ・アーカイブズ (archives) が持つ「複数の意味」（3つ）を正確に理解する。
- ・日本における、公文書を中心とする記録管理の沿革と現状を把握する。
- ・昨今の時事問題に、本学問領域が密接に関わっていることを理解し、説明できるようになる。
- ・戦後民主主義の成熟と運用に、本学問が密接に関わっていることを理解する。

**授業計画と内容**

第01回 (09/25)	ガイダンス：講義の進め方と成績評価方法の紹介・導入
第02回 (10/02)	アーカイブズとは何か
第03回 (10/09)	アーカイブズの歴史①：世界における文書館制度の沿革
第04回 (10/16)	アーカイブズの歴史②：日本における文書保存と文書館制度
第05回 (10/23)	公文書と公文書館
第06回 (10/30)	公文書館の業務①：資料の管理システム
第07回 (11/06)	公文書館の業務②：評価選別と編成・記述
第08回 (11/13)	専門職員（アーキビスト）とその育成
第09回 (11/20)	資料の保存と修復
第10回 (11/27)	大学アーカイブズ①：本学の取り組み
第11回 (12/04)	大学アーカイブズ②：他大学の取り組み
第12回 (12/11)	戦争とアーカイブズ
第13回 (12/18)	まとめとアーカイブズをめぐる時事問題
第14回 (01/08)	到達度確認

※受講生の人数や講義の進度により、シラバス内容を若干変更する場合があります。  
10回目と11回目については、内容が入れ替わる場合があります。  
寄せられたご意見やご質問については、翌週冒頭に回答します。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**



録画等による復習を希望される場合は、柔軟に対応します。ご相談ください。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	65% 最終回の授業時間に、到達度確認の期末試験をお願いする予定です（65点）。
レポート	0%
平常点	35% 毎回リアクションペーパーを提出していただきます（全13回、各回3点）。最大35点
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

毎回出席確認を兼ねたリアクションペーパーを配布し（全13回、出席票だけの場合あり）、感想・疑問・質問等を記入していただきます。それをもとに、理解状況の判断に利用します。的確なご意見には1~3点をします（=平常点、最大35点）。その上で、最終回の授業時間に、到達度確認（期末試験、65点）を実施します。双方を合計し60点以上を合格とします。但し、授業回数の3分の2以上出席が単位習得の条件となります（9回以上参加が成績評価の最低条件）。ご注意ください。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

お問い合わせに対しては、manabaのコレクション機能かメール（ashuntaro001o@g.chuo-u.ac.jp）で対応します。その上で、全員に周知が必要と判断される場合には、manabaであるいは翌週に教室で周知します。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL（課題解決型学習）
- ✓ 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク
- ✓ その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

- ・授業時に随時質疑応答の時間を取り入れます。
- ・オンライン授業に切り替わる場合には、webex/zoomのチャット機能を活用し、クイズを出したり、積極的な意見交換に努めます。

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

- ・随時質疑応答の時間を取り入れます。
- ・毎回リアクションペーパー（出席票）をお願いします。感想等を書いて提出していただきます。
- ・manabaの掲示板を随時活用します。

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

担当講師は、他大学の資料保存機関（公文書館類似施設）での勤務経験（アーキビスト・学芸員）があります。  
勤務内容：資料整理・レファレンス・展示会企画運営・資料調査・資料集編集・紀要等刊行物の編集・講演会開催など。

### 実務経験に関連する授業内容

これらの経験をもとに、近年の本学問領域が抱える問題点を浮かび上げさせながら、分かりやすい授業づくりに努めます。

### テキスト・参考文献等

毎回資料を配布するのでテキストは指定しません。平易な文献としては、

榎澤 幸広ほか共著『公文書は誰のものか?』（現代人文社、2019年）  
瀬畑源『公文書管理と民主主義』（岩波ブックレット、2019年）  
同『公文書問題』（集英社新書、2018年）  
同『国家と記録 政府はなぜ公文書を隠すのか?』（集英社新書、2019年）  
松岡資明『アーカイブズが社会を変える』（平凡社新書、2011年）  
毎日新聞取材班『公文書危機』（毎日新聞社、2020年）  
大阪大学アーカイブズ編『アーカイブズとアーキビスト - 記録を守り伝える担い手たち』（大阪大学出版会、2021年）  
下重直樹・湯上良『アーキビストとしてはたらく - 記録が人と社会をつなぐ』（山川出版社、2022年）

体系的な研究文献としては、  
小川千代子他編『アーカイブ事典』（大阪大学出版会、2003年）  
国文学研究資料館史料館編『アーカイブズの科学』上下巻（柏書房、2003年）  
小池聖一『アーカイブズと歴史学 - 日本における公文書管理』（刀水書房、2020年）  
をご覧ください。

## オフィスアワー

## その他特記事項

本学問領域は図書館学・博物館学と密接に関係します。司書や学芸員を目指す方々の参加を歓迎します。もちろん、他学部の参加者も歓迎します（昨年度、法学部・経済学部・商学部・総合政策学部などからの参加者あり）。

## 参考URL

## 備考

---

**科目名： 日本史**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：水4

**担当教員： 柳澤 誠**

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-HT1-T808

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:06:21 更新者：AC9089

更新日時：2024-01-09 21:48:55

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

- 日本列島にヒトの痕跡がみられはじめる約4万年前から、近代国家成立後に資本主義が確立され国際社会に参入し戦争の惨禍を経験した後、経済成長を遂げるまでを取りあげる。列島に成立した政治権力や社会が、何を契機として、どのように変遷したかということに注目して講義する。

**科目目的**

- さまざまな歴史資料によって明らかにされている日本列島およびその周辺で起こった出来事、出来事の因果関係や人間活動の所産(文物)を探ることで、それらの意味を知り、理解することを目的とする。

**到達目標**

- 1 受講者自身が主に日本史の分野で知見を広げようとする際に必要となる基礎知識を得る。
- 2 学習指導をおこなう知識・技術を得るために必要かつ基本的な日本史の概略を身につける。
- 3 時代の変遷と各時代の特徴を的確にとらえ、理解できるようにする。
- 4 不確かな記憶・情報源に基づく知識や、苦手な時代の事件・事柄を、あらためて確認して興味を持つ。

**授業計画と内容**

- 第1回 講義の概略説明と中央大学多摩キャンパス周辺の歴史
- 第2回 旧石器時代・縄文時代の日本列島
- 第3回 水稻稲作の伝播と小国分立／古墳と大王
- 第4回 中央集権国家の成立
- 第5回 奈良・平安時代の政治体制と土地制度
- 第6回 武士の登場と成長、武家政権の成立
- 第7回 鎌倉幕府執権政治の展開・南北朝内乱
- 第8回 武家領主の成長と戦国時代
- 第9回 織豊統一政権・江戸幕府の成立
- 第10回 幕藩体制と政治改革
- 第11回 幕末情勢と幕藩体制の終焉、近代国家の始動
- 第12回 近代国家日本と戦争
- 第13回 アジア・太平洋戦争と戦後占領統治
- 第14回 戦後復興・経済成長・経済大国化

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

- 受講者自身が疑問に思う点や興味を持った事柄はそのままにせず、復習をこころがけること。
- 歴史系展示がある博物館施設におもむき、考古資料や民具、古文書をはじめとする歴史資料の観察や展示を見学して理解を深めてほしい。

**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

- 期末試験 50% レポートを出題する。参考資料を適切に用い、用語を駆使して日本史の叙述ができるかどうかを評価する。
- レポート 0%
- 平常点 50% 小テスト・小レポートで内容理解度をはかる。小テストは80点以上を目標にして取り組んでください。
- その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

- 期末試験 (レポート) の内容は実施前に告知します。
- 期末試験 (レポート) を提出しない場合はE判定となるので注意すること。

### 課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
  - その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

- 授業内容に関する疑問点等の質問はmanaba等で回答します。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

- 毎回、資料を配布します (manabaの「コースニュース」にアップロード)。配布資料を作成するために参考にした文献等は資料内に記載します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

- 質問・連絡等はmanabaの「個別指導 (コレクション)」か、下記アドレスに送付してください。下記アドレスに送る場合は受講科目名・学籍番号・名前を記載してください。  
ymakoto0011@g.chuo-u.ac.jp

### 参考URL

### 備考

この科目は教職 (社会、地理歴史) の必修科目です。

科目名: 日本史

担当教員: 柳澤 誠

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 水5

配当年次: 1~4年次担当

科目ナンバー: LE-HT1-T808

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:06:22 更新者: AC9089

更新日時: 2024-01-09 21:48:06

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

●日本列島にヒトの痕跡がみられるはじめる約4万年前から、近代国家成立後に資本主義が確立され国際社会に参入し戦争の惨禍を経験した後、経済成長を遂げるまでを取りあげる。列島に成立した政治権力や社会が、何を契機として、どのように変遷したかということに注目して講義する。

**科目目的**

●さまざまな歴史資料によって明らかにされている日本列島およびその周辺で起こった出来事、出来事の因果関係や人間活動の所産(文物)を探ることで、それらの意味を知り、理解することを目的とする。

**到達目標**

- 1 受講者自身が主に日本史の分野で知見を広げようとする際に必要となる基礎知識を得る。
- 2 学習指導をおこなう知識・技術を得るために必要かつ基本的な日本史の概略を身につける。
- 3 時代の変遷と各時代の特徴を的確にとらえ、理解できるようにする。
- 4 不確かな記憶・情報源に基づく知識や、苦手な時代の事件・事柄を、あらためて確認して興味を持つ。

**授業計画と内容**

- 第1回 講義の概略説明と中央大学多摩キャンパス周辺の歴史
- 第2回 旧石器時代・縄文時代の日本列島
- 第3回 水稲稲作の伝播と小国分立/古墳と大王
- 第4回 中央集権国家の成立
- 第5回 奈良・平安時代の政治体制と土地制度
- 第6回 武士の登場と成長、武家政権の成立
- 第7回 鎌倉幕府執権政治の展開・南北朝内乱
- 第8回 武家領主の成長と戦国時代
- 第9回 織豊統一政権・江戸幕府の成立
- 第10回 幕藩体制と政治改革
- 第11回 幕末情勢と幕藩体制の終焉、近代国家の始動
- 第12回 近代国家日本と戦争
- 第13回 アジア・太平洋戦争と戦後占領統治
- 第14回 戦後復興・経済成長・経済大国化

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

- 受講者自身が疑問に思う点や興味を持った事柄はそのままにせず、復習をこころがけること。
- 歴史系展示がある博物館施設におもむき、考古資料や民具、古文書をはじめとする歴史資料の観察や展示を見学して理解を深めてほしい。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

- 期末試験 50% レポートを出題する。参考資料を適切に用い、用語を駆使して日本史の叙述ができるかどうかを評価する。
- レポート 0%
- 平常点 50% 小テスト・小レポートで内容理解度をはかる。小テストは80点以上を目標にして取り組んでください。
- その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

- 期末試験 (レポート) の内容は実施前に告知します。
- 期末試験 (レポート) を提出しない場合はE判定となるので注意すること。

### 課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
  - その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

- 授業内容に関する疑問点等の質問はmanaba等で回答します。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

- 毎回、資料を配布します (manabaの「コースニュース」にアップロード)。配布資料を作成するために参考にした文献等は資料内に記載します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

- 質問・連絡等はmanabaの「個別指導 (コレクション)」か、下記アドレスに送付してください。下記アドレスに送る場合は、受講科目名・学籍番号・名前を記載してください。  
ymakoto0011@g.chuo-u.ac.jp

### 参考URL

### 備考

この科目は教職 (社会、地理歴史) の必修科目です。

**科目名： 外国史**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限： 火2

**担当教員： 鹿野 美枝**

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-HT1-T809

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:06:22

更新者：gakubadmin

更新日時：2024-02-16 18:07:55

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

現在は過去の積み重ねの上であり、歴史を知ることが現代の世界のなりたちを知る上でも極めて重要である。本科目では古代から現代に至る世界の歴史を扱うが、細かい知識の修得を目的とするのではなく、歴史の全体像を俯瞰することで歴史的なものの見方を学び、現代の世界に対する多様な理解をできるようにしていく。また、一面的な歴史観を乗り越えるため、問いを立てることにひとつの重点をおく。

**科目目的**

世界史を学ぶことで、歴史的観点から物事を把握する力を養う。  
グローバル化の進む現代世界において異なる世界の歴史を学ぶことで、異文化に対する理解を深め、多角・多層的、批判的に物事を考える力を身につける。

**到達目標**

歴史を学ぶことで、長期的で多角的な視野を身につける。  
歴史上の史資料を読み解いていくことで、情報リテラシーを身につける。  
様々な歴史観・世界観を知ること、批判的な思考をできるようにする。

**授業計画と内容**

- 第1回：イントロダクション（授業の概要説明）、なぜ世界史を学ぶのか
- 第2回：古代文明・古代帝国と地域世界の形成
- 第3回：地域世界の再編
- 第4回：海陸の交流とモンゴル帝国
- 第5回：近世世界のはじまり
- 第6回：大航海時代
- 第7回：アジア伝統社会の成熟
- 第8回：ヨーロッパの奇跡
- 第9回：近代化の広がり
- 第10回：「ウエスタン・インパクト」とアジアの苦悩
- 第11回：帝国主義とアジアのナショナリズム
- 第12回：第二次世界大戦とアジア太平洋戦争
- 第13回：冷戦と民族独立の時代
- 第14回：まとめ、改めて歴史を学ぶ意義

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

あらかじめテキスト（教科書）の該当箇所を目を通しておくこと。  
各回の授業前後には、用語・事項などの不明点や疑問点を、辞書・辞典等を用いて自ら調べること。  
興味あるテーマ・トピックについては、授業内で適宜紹介する参考文献等にあたり、積極的に学習し自らの理解を深めてほしい。また、学術書に限らず、ひろく関連する小説や映画等、時事・文化ニュースなども紹介するので、各自も日常から関連するニュースに広く関心をもってほしい。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)**

中間試験 0%

期末試験	0%	
レポート	60%	授業内容の理解度をはかる。
平常点	40%	毎回の授業でコメントシート（リアクションペーパー）を提出してもらう。たんなる感想ではなく、自分なりの考えを表現できるかを重視する。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト（教科書）：  
大阪大学歴史教育研究会編『市民のための世界史』大阪大学出版会、2014年、ISBN9784872594690  
参考書：  
北村厚『教養のグローバル・ヒストリー 大人のための世界史入門』ミネルヴァ書房、2018年、ISBN9784623082889  
その他参考書は各講義の時間に紹介する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

この科目は教職（社会、地理歴史）の必修科目です。



科目名： 外国史

担当教員： 鹿野 美枝

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 水3

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-HT1-T809

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:06:22

更新者： gakubadmin

更新日時： 2024-02-19 19:24:54

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

現在は過去の積み重ねの上であり、歴史を知ることが現代の世界のなりたちを知る上でも極めて重要である。本科目では古代から現代に至る世界の歴史を扱うが、細かい知識の修得を目的とするのではなく、歴史の全体像を俯瞰することで歴史的なものを見方を学び、現代の世界に対する多様な理解をできるようにしていく。また、一面的な歴史観を乗り越えるため、問いを立てることにひとつの重点をおく。

**科目目的**

世界史を学ぶことで、歴史的観点から物事を把握する力を養う。  
グローバル化の進む現代世界において異なる世界の歴史を学ぶことで、異文化に対する理解を深め、多角・多層的、批判的に物事を考える力を身につける。

**到達目標**

歴史を学ぶことで、長期的で多角的な視野を身につける。  
歴史上の史資料を読み解いていくことで、情報リテラシーを身につける。  
様々な歴史観・世界観を知ること、批判的な思考をできるようにする。

**授業計画と内容**

- 第1回：イントロダクション（授業の概要説明）、なぜ世界史を学ぶのか
- 第2回：古代文明・古代帝国と地域世界の形成
- 第3回：地域世界の再編
- 第4回：海陸の交流とモンゴル帝国
- 第5回：近世世界のはじまり
- 第6回：大航海時代
- 第7回：アジア伝統社会の成熟
- 第8回：ヨーロッパの奇跡
- 第9回：近代化の広がり
- 第10回：「ウエスタン・インパクト」とアジアの苦悩
- 第11回：帝国主義とアジアのナショナリズム
- 第12回：第二次世界大戦とアジア太平洋戦争
- 第13回：冷戦と民族独立の時代
- 第14回：まとめ、改めて歴史を学ぶ意義

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

あらかじめテキスト（教科書）の該当箇所を目を通しておくこと。  
各回の授業前後には、用語・事項などの不明点や疑問点を、辞書・辞典等を用いて自ら調べること。  
興味あるテーマ・トピックについては、授業内で適宜紹介する参考文献等にあたり、積極的に学習し自らの理解を深めてほしい。また、学術書に限らず、ひろく関連する小説や映画等、時事・文化ニュースなども紹介するので、各自も日常から関連するニュースに広く関心をもってほしい。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)**

中間試験 0%

期末試験	0%	
レポート	60%	授業内容の理解度をはかる。
平常点	40%	毎回の授業でコメントシート（リアクションペーパー）を提出してもらう。たんなる感想ではなく、自分なりの考えを表現できるかを重視する。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト（教科書）：  
大阪大学歴史教育研究会編『市民のための世界史』大阪大学出版会、2014年、ISBN9784872594690  
参考書：  
北村厚『教養のグローバル・ヒストリー 大人のための世界史入門』ミネルヴァ書房、2018年、ISBN9784623082889  
その他参考書は各講義の時間に紹介する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

この科目は教職（社会、地理歴史）の必修科目です。

科目名: 運動の生理と医科学

担当教員: 加納 樹里

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 金1

配当年次: 1~4年次配当

科目ナンバー: LE-HS1-T903

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:06:26 更新者: AA9625

更新日時: 2023-12-25 11:16:32

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

基本的には、授業計画に掲載したテーマについての講義形式である。  
対面授業では、毎時間末に行うQ&Aと、その時限の内容に関する小テスト(ショートレポート)により、出席と理解度をチェックし、同時に履修生からの要望や質問を記載してもらい、次回以降の授業に反映させる。

### 科目目的

競技力向上や、健康スポーツとしての体力増進に役立つ基本的な知識を身につけることを目的とする。

### 到達目標

トレーニングに関する基本知識を身につけて、様々な関連一般情報を適正に理解できるようになる。

### 授業計画と内容

- 1) イントロダクション: 体力科学が扱う領域(健康スポーツと競技スポーツ)
- 2) トレーニングの共通原則・トレーニングプランの考え方
- 3) 運動のエネルギー供給系
- 4) 身体組成と身体活動
- 5) 持久力の生理学的構成要素(基礎)
- 6) 持久力トレーニングの実際(応用)
- 7) 筋の構造と収縮のしくみ・筋肉の役割(基礎)
- 8) 筋力トレーニングの実際(応用)
- 9) 特殊環境下での運動(暑熱・寒冷・高地など)
- 10) アスリートのための食事と食育の基礎
- 11) スポーツ障害・外傷とその対応・測定評価の実際
- 12) コンディショニングの考え方と実際
- 13) メンタル・マネージメント(運動とこころ)
- 14) まとめのレポート提出と授業評価

※9回目以降の内容は応用編のため、順番が入れ替わることがある。

### 授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

オンライン対応が必要になった場合には、配布する授業資料に事前に目を通して授業に臨んでほしい。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	40% 紙媒体は持ち込み可として筆記試験を行う(期末)
レポート	0%

平常点 60% 小レポート提出により、対面授業時の出席状況を評価し、質問等にも対応する  
その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

対面授業が実施できない全学状況の場合にのみ、原則会議システムによる授業を行う。

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

民間スポーツ活動等の指導・実習経験あり

### 実務経験に関連する授業内容

幅広い興味に極力答えるような授業設定とする

### テキスト・参考文献等

参考文献：  
ステップアップ運動生理学 和田正信編著 杏林書院 (2018)  
健康スポーツ50講 中央大学保健体育研究所編 中央大学出版部

### オフィスアワー

### その他特記事項

講義科目のため、要望や疑問点については毎時のQ&Aの時間 とショートレポートで対応する。

### 参考URL

### 備考

**科目名： スポーツと安全****担当教員： 布目 靖則**

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 1～4年次担当

科目ナンバー： LE-HS1-T906

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:06:26 更新者： AA9826

更新日時： 2023-12-26 18:24:31

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

講義を通して、安全にスポーツを実践するための基礎知識を学習する。また、受講者自身が、現在取り組んでいる（あるいは興味を持っている）スポーツ種目の事故事例について話題提供（発表）し、同種事故の防止策についてディスカッションする。

**科目目的**

スポーツ事故の実態について理解するとともに、スポーツやスポーツ行事を安全に実践・運営するための基礎知識を身につける。  
スポーツ活動は、運動会、遠足、部活などの学校行事と関連があるため、こうした行事を安全に企画・運営するためのノウハウについても触れる。

**到達目標**

①プレイヤーとして安全にスポーツを実践するためのノウハウを身につけること、さらには、②スポーツ行事の企画・運営者として安全に行事を遂行するためのノウハウを身につけること、が目標である。

**授業計画と内容**

- ① ガイダンス
- ② 資料検索法（新聞、判例など）
- ③ スポーツに潜む危険（危険の要因分析）
- ④ 事故の法的責任
- ⑤ 判例から学ぶ（民事事件）
- ⑥ 判例から学ぶ（刑事事件）
- ⑦ 組織、指導者、プログラ
- ⑧ ディスカッション 球技での事故
- ⑨ ディスカッション 体操での事故
- ⑩ ディスカッション 格技での事故
- ⑪ ディスカッション 野外や外遊びでの事故
- ⑫ ディスカッション 学校での事故
- ⑬ マネジメントと救急法
- ⑭ スポーツと安全教育

※授業内容の順番は入れ替わることがある。

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと  
授業終了後の課題提出

- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

1人1回の発表（PowerPointを用いて15分程度で）を予定している。その準備をしっかりとすること。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 50% プレゼン=1人1回の発表（PowerPointを用いて15分程度で）の完成度を評価する  
期末試験 0%  
レポート 0%

平常点 50% 出席状況、ディスカッションへの参画、小レポート等により総合的に評価する  
その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

全授業回の7割以上の出席をもって、成績評価の対象者とする

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート  
グループワーク
  - ✓ プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

自然体験活動研究会編 (2011年) 「野外教育における安全管理と安全学習—つくる安全, まなぶ安全—」 杏林書院

### オフィスアワー

### その他特記事項

プレゼンは必須である。ディスカッションに積極的に参加して欲しい。

### 参考URL

### 備考

科目名： スポーツ社会学

担当教員： 向山 昌利

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 木2

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-HS1-T912

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:06:29 更新者： AA2345

更新日時： 2024-01-14 15:19:02

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

スポーツを検討するための切り口は、運動部活動、武道、オリンピック、国際協力、体罰、ドーピングなど、各々の関心に応じて設定することが可能である。この授業では、こうした教育・政治・経済といった様々な領域で社会と複雑に関連するスポーツを、社会学の視点を用いて考察する。すなわち、本授業は、これまで無意識のうちに身体を通じて理解してきたスポーツを、意識的に身体から切り離し、社会との関係に注目して批判的に捉える試みである。

**科目目的**

ローカルレベルからナショナルレベルにまで広がるスポーツに関わる事象を社会的視点から理解する。

**到達目標**

社会的視点から、スポーツに関わる事象を批判的に説明できるようになる。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 いつ、どこで、どのように生まれ、いかに広がっていったのか？：近代スポーツの誕生と伝播
- 第3回 イギリスで作られたスポーツという制度の輸出入：グローバル化するスポーツ
- 第4回 政治と無関係なフリをするスポーツ：政治・権力
- 第5回 刷り込まれる国家像：代表選手の活躍
- 第6回 依存し合うスポーツとテレビ：メディア化するスポーツ
- 第7回 より良い社会の創出に向けた挑戦：開発と平和のためのスポーツ
- 第8回 ゲストスピーカー（時事問題）
- 第9回 震災復興の手段：スポーツ・メガイイベント
- 第10回 恩師との関係が崩壊する深刻な事情：事故補償制度
- 第11回 大学スポーツは金になるのか：NCAA
- 第12回 本当にスポーツは平等ですか？：セックスとジェンダー
- 第13回 スポーツの深い影：スポーツをめぐる社会的諸課題
- 第14回 総括

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- |      |           |
|------|-----------|
| 中間試験 | 0%        |
| 期末試験 | 0%        |
| レポート | 20%       |
|      | 期末レポート    |
|      | 1) 論理性    |
|      | 2) 独自性    |
|      | 3) 表現の正確性 |

平常点	0%
その他	80% 授業後に実施する小レポート 1) 論理性 2) 独自性 3) 表現の正確性

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
  - ✓ グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- ✓ タブレット端末  
その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

ラグビーを草の根から国代表までの競技レベルでプレーした経験があり、「余暇活動」、「健康増進」、「人格形成」、「競技力向上」などスポーツ参加の多様なあり方を理解している。また、国内・国外、愛好家から国代表レベル、児童からシニアといった幅広い対象に対してラグビーを指導した経験を有するため、指導者と参加者との関係を複眼的にとらえることができる。くわえて、政府機関や国内競技連盟とともにスポーツを通じた国際協力プログラムを作成・実施・評価した経験を有するとともに、スポーツを通じた異文化理解プログラムを展開する一般社団法人の代表理事として組織を運営する経験をもつため、プログラム展開や組織運営にまつわる諸課題を理解している。

### 実務経験に関連する授業内容

プレーヤー、指導者、組織運営者としての経験と人的ネットワークを活用して、実践知に基づく授業を展開する。

### テキスト・参考文献等

授業時間内に適宜指示する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考



**科目名： 人体の構造と機能及び疾病****担当教員： 山科 満**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：水5

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-CY2-T922

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:06:33 更新者：AA1029

更新日時：2023-12-30 10:02:47

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

この科目は、国家資格である公認心理師の受験のために必要な25科目のうちの1つとして開設されたものです。心理職の関与が求められる分野は保健医療分野・教育分野・司法分野・福祉分野・産業分野など多岐にわたりますが、中でも保健医療分野は公認心理師の活動が強く求められる領域です。授業は、公認心理師となった人が保健医療分野で活動する際に最低限必要となる医学知識を得ることを第1の目的として行われます。その目的に沿って、医学が実際に営まれる医療制度についても適宜言及することになります。このような医学・医療に関する知識・理解は、スポーツに打ち込む人や、身体・健康に関心がある人にとっても、現在・将来において有用なものになると思われま

**科目目的**

1. 心理専門職となった人が医療現場に出た際に最低限必要となる医学知識を身につける
2. スポーツや健康に関心のある人が、身体や健康について深く学んでいくために必要となる基礎的な知識を得る
3. 心の健康と身体的な健康、および両者の関連性についての考え方を知る

**到達目標**

1. 身体の成り立ちを、医学的な観点から理解する。
2. 内科・小児科・整形外科・神経内科・精神科領域の代表的な疾患についての病態と治療に関する基本的な知識を得る。
3. 人生において必要と思われる健康についての考え方・知識を身につける。

**授業計画と内容**

- 第1回：本授業の概要について：人体の構造と機能
- 第2回：心にかかわる統合器官系
- 第3回：症状から疾患を推測する（1）腹部症状を中心に
- 第4回：症状から疾患を推測する（2）痛みを中心に
- 第5回：小児の成長発達と疾患
- 第6回：加齢と疾患
- 第7回：内科疾患の理解（1）
- 第8回：内科疾患の理解（2）
- 第9回：整形外科疾患の理解
- 第10回：神経疾患の理解
- 第11回：難病の理解
- 第12回：がんの理解
- 第13回：感染症の理解と対策
- 第14回：まとめ

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

授業終了後、授業内時間で課題を提出してもらい、それを小テストとします。  
授業で話した内容のうち、テーマを決めて回答してもらいます。  
また、前週に出した宿題を、授業のはじめに回答してもらい、これも採点対象とします。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

## 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	50%	授業で学んだ内容について、どれくらい正しく理解できているかを確認するためにレポート課題を出します。
レポート	0%	
平常点	50%	授業開始時に遅刻せず出席していたかを確認します。 授業終了後、授業時間内に小テスト(レポート課題)を行います。
その他	0%	

## 成績評価の方法・基準(備考)

出席点は第1回と第14回が1点で、第2回から第13回までが2点で、計26点。小テスト(時間内レポート)は第2回から第13回まで施行し、各2点で計24点です。これと、期末試験の50点を合わせて100点満点で成績評価をします。評価の基準は以下のとおりです。

S: 90点以上  
A: 80点~89点  
B: 70点~79点  
C: 60点~69点  
以上が合格です。  
D: 59点以下 不合格

## 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

## 課題や試験のフィードバック方法(その他)

## アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

## アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

## 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

## 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

精神科医として公立単科精神病院に6年、大学病院精神科に通算8年、市中クリニックに通算25年以上、保健所の精神保健相談に通算8年、社会福祉法人の嘱託医として通算17年、企業内健康管理センターの嘱託医として22年、東日本大震災被災地でのボランティア活動に12年、大学内診療所の精神科医として6年の実務経験があります。  
順天堂大学浦安病院では、緩和ケア担当医として癌患者さんの臨床に携わりました。

## 実務経験に関連する授業内容

現場で出会った患者さんの言葉や様子を、適宜紹介していきます。受講してくださる学生の皆さんに、具体的なイメージが湧くような話しをしていくつもりです。

## テキスト・参考文献等

「テキスト」  
『公認心理師カリキュラム準拠 人体の構造と機能及び疾病』武田克彦・岩田淳・小林靖編著 医歯薬出版株式会社

## オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

---

科目名：健康・医療心理学

担当教員：中村 菜々子

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：月4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-PY2-T923

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:06:33 更新者：AA1934

更新日時：2024-01-09 00:00:57

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

心身の健康維持・増進および疾病の治療・予防には、人の行動が大きく関与しています。これらについて心理学の観点から理解します。具体的には、1) 健康における心と身体の関連、2) 予防の考え方と実際の支援、3) 身体疾患患者への心理的支援、4) ライフサイクルと健康心理学、の4つのテーマについて学びます。

**科目目的**

本授業では、1) 健康における心と身体の関連、2) 予防の考え方と実際の支援、3) 身体疾患患者への心理的支援、4) ライフサイクルと健康心理学の4つのテーマに関して、講義と授業外の課題への取り組みをとおして学ぶことで、心理学の観点から心身の健康維持・増進および疾病の治療・予防について理解することを目的としています。

**到達目標**

- 1) 健康における心と身体の関連について説明できる(健康の定義、QOL、ストレス理論の基礎)
- 2) 予防の考え方と実際の支援について説明できる(Caplanモデルによる予防の概念、危機介入、自殺予防)
- 3) 身体疾患における心理的支援について説明できる(リエゾン精神医学、慢性疾患、行動変容)
- 4) ライフサイクルと健康心理学について説明できる(ライフサイクル、労働者のメンタルヘルス、女性のメンタルヘルス)

**授業計画と内容**

- 第01回 健康における心と身体の関連01：授業オリエンテーション、健康の定義、QOL
- 第02回 健康における心と身体の関連02：ストレス理論の基礎
- 第03回 健康における心と身体の関連03：ストレスによる心身の不調
- 第04回 予防の考え方と支援例01：予防とは
- 第05回 予防の考え方と支援例02：予防の実際例01(危機介入、自殺予防など)
- 第06回 予防の考え方と支援例03：予防の実際例02(高血圧予防など)
- 第07回 身体疾患における心理的支援01：チーム医療とリエゾン精神医学
- 第08回 身体疾患における心理的支援02：慢性疾患の治療と行動変容01
- 第09回 身体疾患における心理的支援03：慢性疾患の治療と行動変容02
- 第10回 身体疾患における心理的支援04：患者さんに伝わる説明とは？行動変容におけるヘルスコミュニケーション
- 第11回 ライフサイクルと健康心理学01：ライフサイクルとは
- 第12回 ライフサイクルと健康心理学02：ライフサイクルと健康の実際例01(働く人の心身健康)
- 第13回 ライフサイクルと健康心理学03：ライフサイクルと健康の実際例02(女性の心身健康)
- 第14回 授業のまとめ

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

授業外の学修時間を最低2時間は確保していただくことを想定した課題を出します。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)**

- 中間試験 40% manaba「小テスト」機能を用いて、概ね2-3回の授業に1回試験を行ないます。小テストは指定された期限内に回答することが求められます。
- 期末試験 0%
- レポート 10% 授業中に1回レポートを課します。

平常点	50%	1) manabaコースニュースを指定された期限内に確認すること、2) 各回のresponを期限内に提出すること、3) respon回答の文章量が基準を満たすことを求めます。これらは減点式で評価します。その上で、4) respon回答内容がすぐれている場合に加点します。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

レポート提出がない場合は、成績評価の対象としないので注意してください。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

講義が中心の授業ですが、受講者からの質問等にはできるだけ応え、双方向なやりとりができるよう工夫していきます。

### 授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- タブレット端末
- その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

臨床心理士・公認心理師として、病院、クリニック、就労支援施設、大学附属相談室等で臨床業務に携わってきました。現在も医療領域で臨床業務を行っています。

### 実務経験に関連する授業内容

本授業は、主に医療領域における、身体疾患患者さんとの臨床での関わりや、身体疾患患者の心理に関する心理学研究実施の経験を生かした内容となっています。

### テキスト・参考文献等

資料を配付します。参考文献については授業中に指示します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

- ※資料と動画配信によるオンデマンド授業を実施します。PCでの受講を想定して資料作成しています。
- ※一定のペースを保って受講していただくことが大切だと考えますので、授業動画・資料はその週の土曜17時までアクセス可能にする予定です。計画的な受講をすることで、生活リズムを整えましょう。
- ※受講者数や受講者の理解度、質問の多さ等に合わせて、授業実施順序や内容を変更する可能性があります。
- ※教員への連絡がある場合は、個別指導 (コレクション) をご利用ください。

### 参考URL

### 備考

この科目はオンライン形式です。

科目名: 精神疾患とその治療／精神保健学

担当教員: 柴田 応介

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 月2

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-CY2-T924

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:06:34 更新者: AC7902

更新日時: 2024-01-05 12:43:38

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

精神障害の診断・治療・予防に関する基礎的知識を講義する。精神科において見られる多様な障害、それに対する治療、それらをかこむ社会・環境(家族、学校、職場、地域)、及び各種問題(虐待、トラウマ、薬物・アルコール依存、ひきこもり、自殺、認知症介護、ターミナルケアなど)をめぐる精神科医療・精神保健福祉の現状と対策について考える。

**科目目的**

精神医学の基礎を学び、日本の精神科臨床の趨勢についてある程度の見通しを得る。  
将来精神科臨床実践に携わるかどうかにかかわらず、人間の心や人間関係、人間が織りなす社会の神秘に対する興味関心をはぐくむ。  
臨床心理士・公認心理士を目指す人には、その最も基礎となる考え方・知識を身に付けてもらう。

**到達目標**

精神医学の基礎を学び、日本の精神科臨床の趨勢についてある程度の見通しを得る。  
人間の心や人間関係、人間が織りなす社会の神秘に対する興味関心を持つ。  
臨床心理士・公認心理士を目指す場合は、その最も基礎となる考え方・知識を身に付ける。

**授業計画と内容**

1. 精神障害とは
2. 脳と神経の科学
3. 器質性精神障害、認知症、薬物・アルコール依存症
4. 統合失調症
5. 躁うつ病(気分障害)
6. 神経症(社会不安障害、パニック障害、強迫性障害、解離など)
7. パーソナリティ障害(境界例、自己愛性障害など)
8. 発達障害(自閉性障害、ADHDなど)
9. 精神科薬物療法
10. 支持的精神療法、精神分析的な精神療法
11. 家族療法、集団精神療法
12. 作業療法、デイケアなどの治療法
13. 学校・職場・地域におけるメンタルヘルス
14. 社会・行政の取り組み(精神保健福祉法、精神鑑定など)

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

毎回テキストの、前もって指定したページを、授業前に読んでおくこと。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)**

- |      |   |
|------|---|
| 中間試験 | 0%  |
| 期末試験 | 30% 期末に教室で筆記試験を行う。  |
| レポート | 30% 精神医療について、自分なりに感じる問題点と、それに対する意見を書く。2000字以上。参考文献を一つ以上挙げる。 |

- 平常点 25% 毎回授業後に、配布する用紙に質問・感想・意見を書く。  
その他 15% 普段の授業におけるコミットメント。

#### 成績評価の方法・基準(備考)

上記平常点、その他については、授業開始時に詳述する。

#### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

#### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

#### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

テキストは「心理のための精神医学概論」(沼初枝著 ナカニシヤ出版)とする。その他参考文献は適宜指示する。

#### オフィスアワー

#### その他特記事項

授業は、出席者の知識レベル、興味関心の方向によって内容を柔軟に変えていく予定である。前回は指示された教科書のページを読んでくること、および授業への積極的な関わりが望まれる。

#### 参考URL

#### 備考

科目名： 社会言語学特論

担当教員： 朝日 祥之

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 金2

配当年次： 3・4年次担当

科目ナンバー： LE-LG3-U406

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:06:47

更新者： AD0151

更新日時： 2024-01-05 06:01:21

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

本講義では、言語接触の諸問題を取り上げ、言語接触によって発生する現象に関する問題について理解を深めてもらうことを目的とする。当該分野における日本・欧米の研究動向を踏まえ、日本語と他言語の接触をはじめ、日本国内外で発生する言語接触の諸現象を取り上げる。授業で取り上げるテーマは、言語接触論、ドメイン、言語景観、ピジン・クレオール、コード切り替え、ニッケイ社会の日本語（北海道、台湾、サハリン、ハワイ、南北米の日本語）、日本国内の外国語、日本手話、日本語対应手話と日本語などである。

**科目目的**

本科目の目的

言語接触の基礎的知識を見つけるとともに、関連テーマの研究動向、研究成果、私たちの使う言葉の違いに見られる様々な特徴を知ることができる。

到達目標

自分自身が使用する言語の特徴について内省できるようになる。言語接触による現象について自分で観察し、説明できるようになる。

意義

言語接触はこれからの日本語社会においては主要テーマになる。自分自身が外国語を使用することの意味、第二言語を使用することの意義、評価などについて考えられるようになる。

**到達目標**

言語接触に関する状況への理解を深めることができる。

外国語習得を行う目的、第一言語と外国語を使うことの意味、海外で使われている日本語の多様性などを知ることができる。

消滅の危機に瀕した言語に対する理解を深めることができる。

**授業計画と内容**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 言語接触論
- 第3回 ドメイン
- 第4回 言語景観
- 第5回 ピジン・クレオール
- 第6回 コード切り替え
- 第7回 日本語の接触方言（1）北海道
- 第8回 日本語の接触方言（2）サハリン
- 第9回 日本語の接触方言（3）ハワイ
- 第10回 日本にある外国人コミュニティの言語（1）韓国・中国
- 第11回 日本にある外国人コミュニティの言語（2）ブラジル・ペルー
- 第12回 日本にある外国人コミュニティの言語（3）南アジア
- 第13回 日本手話・日本語対应手話と日本語
- 第14回 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。



・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

#### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	60% 本科目内容の全体的な確認
レポート	0%
平常点	40% 議論への参加, 授業参加
その他	0%

#### 成績評価の方法・基準(備考)

#### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
  - ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）  
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
  - ✓ グループワーク
- プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

#### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

#### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

講義ではレジュメを配布するため、テキストは使用しない。

#### オフィスアワー

#### その他特記事項

#### 参考URL

#### 備考

科目名: Introduction to Social Sciences(1)

担当教員: 曹 三相

履修年度: 2024 学期: 前期

開講曜日時限: 金2

配当年次: 1~4年次配当

科目ナンバー: LE-SC1-WE02

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:06:53 更新者: AC8575

更新日時: 2024-01-08 21:48:34

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

This is a course designed to provide the student with an overview of current issues in the world, focusing on the crises that the three regions—that is, America, Europe, and East Asia—and the world face. This course is intended to bring a promising way to understand “why the crisis occurs, why the crisis is so deep and broad, how the crisis affects our daily life, how this crisis will affect our future, and how we should respond to the crisis.” Students will be exposed to a wide-range of knowledge and thought about American hegemony, inequality, political crisis, Russia-Ukraine war, liberal international order, European integration, Europeanization, the rise of Euroscepticism, ‘history problem’ in East Asia, rising China as well as global pandemic and climate disaster.

**科目目的**

The objectives of this course are to help the student sharpen their “skills” as a critical thinker, an analyst, and an effective communicator. It is hoped that by the end of the semester you will find the course to be informative, interesting and enjoyable.

**到達目標**

The students will acquire familiarity with key concepts and approaches developed by scholars and practitioners in social science in order to make sense of our world. It is hoped that by the end of the semester you will find the course to be informative, interesting and enjoyable.

**授業計画と内容**

- 第1回 Introduction and Overview
- 第2回 The Road to Supercapitalism in America
- 第3回 The Crisis of American Politics
- 第4回 The End of American Century
- 第5回 Putin’s Invasion of Ukraine and the Ending of International Orders
- 第6回 History of the European Integration
- 第7回 European Identity and Europeanization
- 第8回 Mid-Term Exam
- 第9回 The Rise of Euroscepticism
- 第10回 Ripe for Rivalry in East Asia
- 第11回 History Problem: Sorry Seems to be the Hardest Word
- 第12回 Will China Rule East Asia?
- 第13回 Climate Disaster
- 第14回 Final Exam

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

Students are required to complete the readings prior to class meetings and to come to class ready to discuss them. I expect everyone to participate actively in the discussion of the day. Every student should be able to summarize, analyze, synthesize, and evaluate each assigned reading by addressing the following questions:

- i. What is the author’s purpose?
- ii. What is the basic theme(s) or argument(s) of the reading?
- iii. What are the most important historical events, information, concepts, etc. discussed in the reading?
- iv. How does this reading relate to the other readings and to the central themes of the course?

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	35%	Exam will consist of definition of concepts or terms and short essays. Exams will cover the materials presented in lectures, discussions, and readings. You should demonstrate the knowledge you have acquired in the assigned readings and class discussions, as well as your thoughtful consideration and analysis of the material.
期末試験	35%	Exam will consist of definition of concepts or terms and short essays. Exams will cover the materials presented in lectures, discussions, and readings. You should demonstrate the knowledge you have acquired in the assigned readings and class discussions, as well as your thoughtful consideration and analysis of the material.
レポート	0%	
平常点	30%	In order to get the most out of class, you must be prepared when you come to class.
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）  
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート  
グループワーク
- ✓ プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

Sam-Sang Jo received Ph.D. in international studies from the University of South Carolina. He was visiting scholar of East-West Center in Hawaii, Chinese Academy of Social Science, University of Cambridge, Fudan University, Tohoku University, and University of Tokyo. He was also visiting scholar of East-West Center in Hawaii, Chinese Academy of Social Science, University of Cambridge, Fudan University, Tohoku University, and University of Tokyo. He has taken courses, conducted research in, or otherwise visited for professional or personal purposes, America, Britain, France, Germany, Denmark, Sweden, Austria, Russia, Poland, Hungary, Belgium, Switzerland, Italy, China, South Korea, Taiwan, Hong Kong, Indonesia and Costa Rica. His teaching and research interests cover regional integration, international cooperation, Western European politics, East Asian politics, comparative analysis of Europe and East Asia, and US foreign policy. He is an author of *European Myths* (2007). His publications have appeared in such scholarly journals as *Japanese Journal of Political Science*, *Asia Europe Journal*, *Journal of Contemporary European Studies*, *Northeast Asian Studies* (Tohoku University), *Korea Observer*, *Korean Journal of Political Science*, *中央大学 紀要 社会学・社会情報学*, *中央大学 社会科学研究所年報* and so on. He has received several merit-based fellowships, awards, grants and prizes.

### 実務経験に関連する授業内容

Sam-Sang Jo is currently teaching at Chuo University and International Christian University as well. He had

taught at Graduate School of International Relations, Pusan National University, Graduate School of International Relations and Diplomacy, Beijing Foreign Studies University, Monmouth College and University of South Carolina.

#### テキスト・参考文献等

A course packet containing all assigned articles, book chapters, and the handouts will be posted on Manaba.

#### オフィスアワー

#### その他特記事項

TEACHING PHILOSOPHY

The class will be structured around what I call a class dialogue in which information, knowledge, and thought will be generated through lecture, discussion and, in particular, the Socratic method. I will often play the role of provocateur and advocate to stimulate participation. The class dialogue emphasizes the importance of student participation and active learning as a means to improve one's skills, interest, information, knowledge, and, ultimately, understanding. In essence, class discussions will consist of an active exchange between the student and professor.

#### 参考URL

#### 備考

---